

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		萩野 敦子	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	①担当する学部および大学院の国語科関係の科目において、それぞれシラバスに掲げた目標への到達をめざす。②古典文学で卒業論文を執筆する学生の論文指導を行う③3年次の指導教員としての責務を全うする。④一人でも多くの学生あるいは卒業生が教員採用試験に合格できるよう、小論文を中心に指導を行う。また、認定試験の作成を行う。⑤学生が教育現場と結びつく活動を通して、教師としての実践力を高められるよう支援する(プラクティススクールの実施や小中学校での学習支援など)。			0.30	①目標を達成できた。学生による授業評価も高ポイントであった。②卒業論文を指導した2名につき、内容の濃い論文を提出した。③指導教員としての責務を果たした。④違う学科の学生を含めて多くの小論文をボランティアで指導し、国語科からは4名の現役合格者が出た。⑤10年目となる「コックさん学校」の活動を順調に終わることができた。以上、目標に対して十分に達成できた。		
研究	0.25	①科学研究費助成研究「近世琉球和文学の考究および沖縄版『伝統的な言語文化』としての教材化」を着実に進める。本年度が最終年なので、来年度以降の科学研究費獲得につなげる。②所属している狭衣物語研究会で出版予定の論文集に論文を投稿する。③国語教科書の古典作品ないしは伝統的な言語文化作品の教材のありようについて論文を執筆する。			0.25	①研究を進め、継続を目指して現在、科研費を申請中である。②『狭衣物語』についての研究論文を執筆し、翰林書房より論集が5月に刊行されることになっている。③古典文学の現代における再生にかかわって『とりかへばや』の派生作品について研究仲間とのラウンドテーブルを主宰、日本文学協会の大会で実施した。以上、目標に対して十分に達成できた。		
社会 貢献	0.25	①石垣市立中学校および浦添市立小・中学校に対して、教育研究を支援し、教育現場との協働を深める。②教員免許状更新講習に講座を提供、夏休み期間に実施する。③アドバイザースタッフとして、要望があれば授業現場等での助言などを行う。④琉球新報社「高校生読書体験記コンクール」審査員を務める。			0.20	①石垣市立大浜中学校での校内研修について研究主任とアイデアを出し合いながら進めてきた。浦添市立沢岬小学校における夏休みの学習支援、浦添市立浦添中学校における学年末の学習支援(2月～3月予定)を実施した。②予定どおり実施した。③北海道大学教育学院において、実践事例の報告を行うなどの活動をした。④予定どおり審査員を務めた。以上、目標に対して十分に達成できた。		
管理 運営	0.25	①全学では、ジェンダー協働推進室委員、学術研究助成金選考委員会委員、大学院将来構想タスクホース委員を務める予定なので、それらの責務を全うする。②学部では、改組WG委員として将来構想に関わる。③国語教育教室から二つの委員会の委員を併任し、責務を全うする。			0.25	①いずれの委員も予定どおり務めた。②予定どおり務めた。また、改組決定後の入試委員会において、教科教育専攻の入試部会の副部長(「長」が学校教育専攻であるため実質的な中心を務めた)として活動している。③教育委員と入試委員として責務を果たした。以上、目標に対して十分に達成できたほか、目標を超える活動として、学部で獲得した戦略経費による教育研究活動について、さまざまなアクションを起こした。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	武藤 清吾		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	
職 名			職 名	教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.65	教科教育担当教員として、授業の充実及び専修所属学生ならびに他学部・専修学生の学習活動の支援を行う。1年次担当教員として、学生生活の充実と学習活動のための指導助言を行う。	0.50	8月に、第1回学びのゆいまーるを開催して、卒業生教員、現役院生学生40名で3名の小中高教師を招いて国語教育実践を学んだ。国語科教育法などの講義科目、ことばの教育演習などの演習科目を開講して学生の学習活動を支援した。教育実習生の指導を行い、県内小中高校8校を訪問した。なかでも、現場の授業参観を重視して、5月から7月にかけて5回の参観を実施し、教職実践演習の学生を中心に毎回10名程度の学生が参加した。また、法文学部の国語科教員免許取得希望者の指導を行った。その際、国語科教育法では、学生による授業評価を毎回行い、その意見を毎時の授業通信に反映した。模擬授業準備に必要な指導助言を授業外で多くの時間を割いて行った。演習科目受講生と合宿を行い、学生の学習生活を支援した。1年次担当教員として、入学当初の学生がスムーズな学生生活を送るための面談を実施した。熊本出身の新入生には震災の影響が心配されて特に注意して指導に当たった。教員採用試験では、繰り返し受験指導を行い、小中合わせて受験生5名中4名が合格した。	
研究	0.20	専門領域での研究活動を積極的に遂行して、その成果を社会に公表していく。また、学部附属中学校での国語科共同研究者としての業務を遂行して、附属学校での研究活動の発展に資する。さらに、科学研究費補助金、その他研究助成に積極的に応募し、研究活動を発展させる準備を行う。	0.25	10月に広島市立中央図書館の「ぎんのすず」創刊70周年記念講演会で講師として講演した。6月に全国大学国語教育学会東京大会で口頭発表1回を行った。12月に国語学懇話会で沖縄の戦前の短歌について発表した。8月に琉球新報に沖縄の季語集の復刊に関する書評を掲載した。2018年度刊行の「ことばの授業づくりハンドブック」の編集責任者になり、企画立案、執筆依頼の準備をした。また、昨年度より継続している2018年度刊行の事典編集委員長として活動した。2017年9月開催の西日本国語国文学学会でのパネラーになり、その準備のための会議に参加した。2017年5月開催の日本近代文学会漱石生誕150周年記念パネルディスカッションのパネラーになり、その準備のための会議に参加した。解釈学会、教育史学会、教育目標・評価学会の各研究大会に参加した。さらに、学部附属中学校ならびに附属小学校での国語科共同研究者として、年2回の公開授業と研究発表会に参加して指導助言を行い、研究紀要作成に助言を行った。さらに、科学研究費補助金に応募し、その結果待ちである。	
社会貢献	0.10	小・中・高校と連携して、教育現場での教育力の向上に資する支援活動を行う。また、学会活動として、専門学会での役員としての職務の遂行、日本国語教育学会沖縄大会の準備など、学会の研究水準の向上と社会貢献に資する活動を行う。琉球新報社児童文学創作公募の選考委員や琉球大学附属図書館のびぶりお文学賞選考委員としての職務を遂行して、地域文化の向上や図書館及び大学の広報活動に貢献する。	0.20	7月に糸満市立金城小学校で説明文指導とアクティブラーニングに関する講演を行った。7月に那覇市教育委員会の夏期研修で講演を行った。7月に教員免許更新講習で講演を行った。また、6月に中城村教育委員会連携の会議に参加して交流した。8月に開催された日本国語教育学会沖縄大会に指導助言者として参加した。11月に九州地区国語教育研究会沖縄大会に参加した。附属図書館のびぶりお文学賞選考委員として第10回びぶりお文学賞小説部門の選考を行った。琉球新報社児童文学創作公募の選考委員として選考を行い、その選考評を琉球新報に掲載した。2016年度全国学力・学習状況調査の沖縄県中学校国語の結果について分析して、琉球新報、沖縄タイムスに分析結果を公表した。さらに前年度より継続していた同調査の2013・14年度調査結果分析(科研費による学内共同研究プロジェクトの研究分析)のパンフレット作成に協力した。	
管理運営	0.05	学部学生生活委員会としての業務を遂行する。特に、認定試験WGとして、学生の教員採用試験対策を支援する学部認定試験の準備、遂行に積極的に参画して、教員採用試験合格者数増に貢献する。また、1年次指導教員として新入生歓迎行事、新入生合宿研修の成功のための支援を行う。さらに委員会委員としての業務を支援遅延なきよう着実に遂行する。	0.05	1年次指導教員として新入生オリエンテーション合宿研修に参加して、新入生の指導に当たった。学部学生生活委員会委員、認定試験WGとして、学部認定試験の計画立案に参画し、さらに新たに学生による教員採用試験対策学習会の組織に関与して、学部全体及び国語科の教員採用試験合格者数増に貢献した。委員会委員としての業務を支援遅延なきよう着実に遂行するため努力した。また、入試問題作成委員として活動し、入試問題作成、入試監督、採点に関わった。大学入試センター監督者として活動した。さらに学部投票管理委員として活動した。	
	0.00		0.00		
計	1.00	赴任2年目を迎え、新たな気持ちで学部教職員に積極的に相談して、上記目標を達成すべく努力する所存である。	1.00	今年度は全ての領域で概ね目標を達成できた。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高良 倉成	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	経済学概論や国際経済論などで講義資料をより少量で簡略なものを工夫する。特殊講義では学生によるデータ収集・加工の機会を増やす。また1年次指導教員として学生への指導・助言を積極的に行う。			0.25	経済学概論や国際経済論では、取り上げる論点や参照データを厳選した。特講は経済時事問題演習との合併で行い、日銀による量的金融緩和政策の経緯や特徴について理解させることを試みた。経済学演習や島嶼社会演習では、表計算ソフトを活用してデータ収集・加工を指導した。		
研究	0.20	今年度前半は、『社会学評論』第265号(6月刊行予定)および『季刊・経済理論』第53巻3号(10月刊行予定)にそれぞれ掲載される論文の校正がある。年度の後半は、経済成長・発展をめぐる議論のうち、構造変化を扱った国内外の研究を渉猟する。			0.15	『社会学評論』および『季刊・経済理論』への掲載論文は、それぞれ予定どおり刊行された。年度後半は、経済成長・発展をめぐる「定型化された事実」の取扱いについて、電子ジャーナルなどから研究状況を確認した。		
社会 貢献	0.00				0.00			
管理 運営	0.50	教育研究評議員として、学部では学部教育委員会や大学院教務委員会の委員長をつとめ、全学ではグローバル教育支援機構会議、教員養成運営協議会および同運営委員会、自己評価・点検委員会などの運営に貢献する。			0.60	評議会や各種委員会での職責を果たした。学部改組に伴うカリキュラム改革に付随する学部内調整に多大の時間と労力が必要となった。また、全学の教職課程を統括する体制整備のためのプラン策定ワーキンググループ、およびそのプランを実現するための整備実行ワーキンググループそれぞれの委員長の役割も担った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		花木 宏直	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	<p>本学部奉職後の3年間の経験から、本学部ではもちろん個人差はあるものの、自身の周辺の環境にしか興味をもてない学生が大変多いことに気づかされた。人文地理学の担当として、この状況を変えるべく、地理学実習の科目を活用し、沖縄以外での現地調査を通じて、沖縄と同様な問題を抱える他地域の現状や、他地域での沖縄に対するまなざしの実態を理解するとともに、学生をさまざまな世界に触れさせ興味を沸かせられるよう、積極的に授業を展開する。また、生活科教育概論等の講義科目についても、課題に現地調査と地図作成を取り入れる等工夫し、身近な地域であっても案外知らない世界が存在することに学生が気づくような展開を積極的に実践する。</p>			0.20	<p>年度目標に沿って、地理学実習を5度(ラオス、鹿児島、大阪、北関東工業地域、山陰地方)開講し、沖縄と同様な問題をもつ地域(開発途上地域、平和祈念事業の盛んな地域、離島・へき地の振興等)や沖縄と関わりの強い地域(薩摩藩領、沖縄県系人集住地域等)を実見することで、沖縄の地域特性の相対化を図った。また、生活科教育概論においても、低学年向けの教科であることを勘案し、地域安全マップづくりをはじめ、身近な地域の意外な特性に気づく取り組みを取り入れた。いずれについても、おおむね学生の反応は良好であった。</p>		
研究	0.30	<p>前年度に引き続き、移民研究センターの共同研究プロジェクトである、ウチナンチュとバスク人の比較研究の研究分担者として、積極的に研究活動を進める。まずは前年度の継続という形で琉球大学中期計画プロジェクトの研究費を取得し、アメリカとアルゼンチン、ブラジルへの海外現地調査を再び行い、海外の研究者と交流しながら、本研究の中間まとめにこぎつける。並行して、科研基盤研究Aを目標に研究費の申請を行い、次年度以降の2つの移民の詳細な意識調査へ展開できるよう、最大限努める。</p>			0.30	<p>本年度は、第6回世界のウチナンチュ大会への参与観察や、来訪した沖縄県系人への聞き取り調査を行った。また、主要な海外の沖縄県系人コミュニティの1つであるアルゼンチンに注目し、沖縄県人会での聞き取り調査や、ウチナンチュ大会参加者への意識調査を実施した。あわせて、アルゼンチンのバスク人の同郷者集団への聞き取り調査と、スペインのバスク地方での資料調査も行った。平成28年度末現在、これらの調査成果の分析を進めており、平成29年度中に成果報告ができるみこみである。</p>		
社会 貢献	0.20	<p>ウチナンチュとバスク人の比較研究の一環として、本年度10月に行われる世界ウチナンチュ大会にあわせ、移民研究センターが主催し、バスク研究者を沖縄に招待して、ウチナンチュとバスク人の比較研究成果を一般向けにシンポジウムを行う予定である。2つの移民とも、強固な移民ネットワークをもち、5年に1回の移民フェスティバルの開催や、言語復興、自己決定権問題など、共通点が大変多く、聴衆に大きなインパクトを与えることが推察される。</p>			0.20	<p>シンポジウムの開催には至らなかったが、平成28年度前期までのウチナンチュとバスク人の比較研究成果と、第5回世界のウチナンチュ大会にて行った沖縄県系人への意識調査の成果をとりまとめ、沖縄移民センター発行の「移民研究12号」に特集号としてまとめることができた。この論集は第6回世界のウチナンチュ大会の時に沖縄県人会関係者へ配布し、高く好評をいただいた。</p>		
管理 運営	0.20	<p>社会科講座の運営に積極的に貢献する。また、教育実習委員として、社会科教育専修の学生が問題なく教育実習を終えられるよう、業務を全うする。また、教育実習委員の介護等体験指導部会副部会長として、部会長のサポートに努めるとともに、受入れ先の施設と本学部との良好な関係を維持できるよう最大限尽力する。</p>			0.20	<p>社会科講座と教育実習委員の業務を、とくに問題なく進めることができた。</p>		
進路 指導	0.10	<p>ゼミ指導学生5人について、教職2人、公務員1人をはじめ、希望の進路に進めるよう、最大限支援する。とくに、教職志望者のうち、本土勤務を希望する1人について、学内推薦の紹介を積極的に活用する。進路の定まらない2人についても、早めに希望をみいだせるよう支援する。</p>			0.10	<p>ゼミ指導学生のうち、1人は公務員の臨時採用が内定したが、他は卒業論文のテーマ選びに苦慮し、就職が未定のままや、留年という結果になった。次年度以降は、この状況が改善できるよう努めていく。</p>		
計	1.00				1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>		
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p>					<p><input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。</p>			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山城 康一	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	専門科目:代数学I序論で反転授業 学部ゼミ4年生2人、院生2人のそれぞれの分野への意欲の持続 webclassの利用		0.40	・反転授業(代数学序論I・II)―毎回授業動画を公開し、事前にそれを参考にしながらテキストで学習することを要求。動画中の問の答えをメールすることと少なくとも1つの疑問点、あるいは他の学生の疑問点への回答を授業参加の条件として課し、授業では学生から提出された疑問点をもとにディスカッションを行う。 ・webclass(すべての授業)―配付資料、授業に関する通知、質問及び回答、授業進行に関するアンケートなどをweb上で行う	
研究	0.30	部分環の列に関する研究の継続 平田分離拡大環の諸結果の強分離拡大環への拡張 ある種の圏論的システムの構築		0.10	過去9年間のコックさん学校の授業をまとめたパンフレット「コックさん学校―おいしい授業のレシピ」を、国語科の萩野先生と共同で発行	
社会 貢献	0.10	九州数学教育研究大会における指導助言 日本数学教育研究沖縄大会に対する取り組み		0.10	沖縄算数・数学教育会の執行役員 日本数学教育研究沖縄大会準備委員	
管理 運営	0.20	コックさん学校		0.40	周辺の児童を集め、教育学部の学生を先生として学校カリキュラムにしばらくられない国語と算数の授業を行う「コックさん学校」を開校 活動を通して学ぶ(アクティブ・ラーニング)授業を、学生には計画・実施を支援、児童にはその提供	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		日熊 隆則	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・授業: 数理の構造において、アクティブラーニングの一環としてグループ学習を取り入れる。また、数理の構造ではiPadやパソコン、DVDを利用した、ビジュアルな授業をやる。 ・プロジェクトSEED: 「すべてのこどもをナマイキに」という目的のため、学生や社会人を巻き込んで、教育について考え実践するグループワークを月に一回必ずやる。 			0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・数理の構造の授業では、アクティブラーニングを意識した進行とマルチメディアを利用した講義は学生にとっても好評であったが、教室の椅子が固定のため、作ったグループの活動があまり活発にならなかった。 ・SEEDは実際に2月に一回、一年間行った。各人のシェアがお互いの共感をよび、参加者には新鮮な体験だったようである。ただ、参加者にもっとコミットしてもらう必要を感じている。点をつければ60点。 		
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の学習をゲーム化するためのシステムを、Web上に構築し、美東中学校の土曜塾で試験運転する。 			0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に、工学部の宮田先生の協力を得て、アプリを製作し、実際のテストと連動させてゲーム化の最初の実験を試みた。アプリがそれほどのものでなくても、生徒たちはゲームに食いつくようである。点をつければ70点 		
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・付属小でのパソコンクラブの授業 ・美東中学での土曜塾で、中学生に学習支援 			0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は付属小だけでなく、銘苅小でもパソコンクラブの授業を行った。子供たちは難しいけれど、楽しいというプログラミングが好きなようである。 ・土曜塾では成績がなかなか上がらないという問題が見えてきた。学生は積極的に取り組んでくれていて、貴重な経験をしているようだ。 		
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 学生生活委員、釧路校交換留学制度WG、キャリア概論世話人 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> 今年もなんとかやりました。キャリア概論の世話人は世間のいろんな方にお会いできて興味深い仕事でしたが、これが来年からなくなるというのは非常に残念に思えます。 		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		湯澤 秀文	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	各講義に対する学生の質問や感想を随時取り入れ、これを授業の改善等を通じてフィードバックして行く。近年の情報や研究成果も適宜紹介する等活用し、講義の質の向上に努める。 また、ゼミや指導年次の学生に対し、進路相談、修学相談等を随時行う。			0.35	ほぼ毎回の講義において、学生からの質問や感想を、主に記述を通して聞くことができ、結果をそれ以降の講義の改善に役立てることができた。また、近年の研究の動向等も適宜活用した。その結果、これらに関する学生の感想記述は、概ね講義の趣旨に沿うものが多かった。 また、ゼミや指導年次の学生に対し、進路相談、修学相談等を随時行った。		
研究	0.35	研究テーマに関する資料・情報の収集、教材開発、授業研究、授業実践、学会参加等を通じて、算数・数学科教育及び教師教育に関する研究と実践を進める。			0.35	研究テーマに関する資料や情報の収集、学会への参加等を通じて、実践や考察を進めることができた。		
社会 貢献	0.20	学会や、附属学校・公立学校の研究大会、研修、授業研究会等における指導・助言等の要請に可能な限り応え、学校や大会の運営に協力する。			0.20	附属学校における研究大会や校内研修、教育実習等での指導・助言のほか、公立学校や各種研究団体等からの研究会・研修会等についても可能な限り依頼を受け入れ、指導・助言等を行った。		
管理 運営	0.10	所属委員会の活動に取り組む。			0.10	所属委員会より依頼された業務に関しては責務を果たすことができた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)									
名 前		柄木 良友		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程		職 名	教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.50	担当講義を行う。2年次指導教員として学生支援を行う。			0.30	担当講義を行った。2年次指導教員として学生支援を行った。			
研究	0.20	東京大学物性研究所と共同研究を行う			0.20	東京大学物性研究所と共同研究を行った。成果は投稿中。			
社会 貢献	0.00				0.00				
管理 運営	0.30	理科講座の主任としての職務を行う。極低温センターの保安統括者代理としての職務を行う。			0.50	理科講座の主任としての職務を行った。極低温センターの保安統括者代理としての職務を行った。			
	0.00				0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岩切 宏友	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.45	<p>○物理学実験の講義を通して、基礎的な物理の実験手法の確立や、コンピュータの活用方法、論理的な文章の書き方などを指導する。</p> <p>○修士論文作成および卒業研究の指導により、自発的研究能力や科学的思考能力の育成を行う。</p> <p>○教育学部における理科教育法を高度化し、その手法を確立して講義に生かす。</p> <p>○</p>			0.45	<p>物理学に関する講義については十分な学習効果が得られた。なお講義の内容についてはアクティブラーニング活動を強化するなどして、昨年度から20%程度変化させた。また3人の学部学生に対して卒業研究指導を行い、科学的思考力や文章作成、プレゼンテーション技術の育成に成果があった。修士課程在籍の学生1名についてはより専門的な研究指導を行った。</p>		
研究	0.40	<p>○国際科学技術協力プロジェクトであるITER-BA(国際熱核融合実験計画を補完・支援する先進的核融合研究開発事業)からの助成金を受け、未来エネルギーである核融合炉建設に関する基礎研究を進展させ、学会および学術論文として発表する。</p> <p>○本年度より採択された、科研費基盤研究(中高理科教育にプラズマは導入できるのか?その有用性を見極める実践的研究)を開始し、基礎的な成果を得る。</p>			0.42	<p>ITER-BAについては3つの官学連携プロジェクトに従事し、一定の成果が得られた。金属中における水素挙動に関する計算機シミュレーションについて、着実な成果が得られ、1本の原著論文が国際的学術誌に掲載された。科研費に関する研究(プラズマに関する教育)について一定の成果があり、研究集会において1件の発表を実施した。また、琉大付属中理科の共同研究者として付属中教諭との共同研究に従事した。</p>		
社会 貢献	0.05	<p>○京都大学大学院 エネルギー科学研究科の博士後期課程の学生に対する研究指導を行う。</p> <p>○公立学校等で、物理学に関する講演・出前授業などを行う。</p>			0.03	<p>本大学院卒業生である京都大学大学院・博士課程所属の学生に対する研究指導を行い、一定の成果が得られた。また、科学作品展の審査委員に従事した。</p>		
管理 運営	0.10	<p>○大学院自然科学教育専修・理科教育領域主任としての業務を円滑に遂行する。</p> <p>○理科教育専修1年次の指導教員および、休職中の教員が復帰するまで4年次の指導教員としての業務を円滑に遂行する。</p> <p>○入試委員としての業務を円滑に遂行する。</p>			0.10	<p>理科教育専修1年次並びに4年次の指導教員としての業務を円滑に行うことができた。また、大学院・理科教育領域主任および入試委員としての業務も円滑に行った。</p>		
	0.00				0.00			
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>			1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	服部 洋一	所属	教育学部 学校教育教員養成課程	職名	教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成28年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	<p>①コメント・カードや受講ノート等によって学生からの積極的な意見聴取に努め、学生より得られた感想・意見を考慮し授業の改善(設備の充実も含めて)に努める。②オフィス・アワーに関しては学生からの要望がある時にその都度こまめに設定し、学習相談に大いに役立てることとする。③自己の専門分野における研究もしくは学際的分野における経験によって得られた事柄を実際の授業においても積極的に取り入れる。④大学院生を積極的にTAとして用い、もしくは外部専門家等を非常勤としてTTとして登用し、意見交換・協働作業・助言をとおしてたがいの教育能力の資質向上に努める。⑤FD授業開催や、FD授業への参加などを年度内最低1回の達成。⑥バイリンガル授業(前期2コマ)を継続し、実技面で困難に感じていることはないかを常にチェックし、彼らの練習楽器(ギター)と練習場所を好意的に確保する。⑦自己の所属する専修の学生への教育指導ばかりでなく、心理臨床科学コースの協力教員として学生の教育、フィールド実習指導、論文指導に協力する。</p>		0.30	<p>①左記に掲げた努力を行った。特に学生からの要望の高い音楽棟内の学生控え室(学科室)の拡充計画を中心とした教育設備学習施設充実のためのアメニティー改善について文書を作成し、申請を行った。②学生からの要望に従いオフィスアワーを設定し、今年度はかなりの数の学生からの相談を受けた。③積極的に取り入れた。④前期においては、院生を共通教育科目TAとして起用し、後期学部共通科目「子ども文化とコミュニケーション」においては、外部講師をTTとして協働し、その授業コンセプトと成果についての論文をセンター紀要にシリーズとして寄稿し始めた。⑤西原町との地域包括連携プログラムの音楽教育編として、ワークショップを行い、音楽科教員にもFDとして参加してもらった。実技教員(声楽、ピアノ、器楽担当教員)の期末実技試験を教員相互で公開しFDとして役立てた。⑥左記の通り行った。⑦左記の通り、外国語文献購読を前後期とも行き、副査として4名の論文指導を行った。(本年度は音楽療法系の卒業研究はいなかった)</p>
研究	0.50	<p>①年度内最低1回の学会誌もしくは高等教育機関の紀要等への投稿。②年度内最低1回以上の研究発表(リサイタルまたはジョイントコンサート)を外部ホールにおいて行う。③自らの専門分野の研究(研究成果を応用する教育活動も含む)の意義を外部に対して発信し、理解を得るとともに外部資金獲得に積極的に行動する。④本学法学部国際言語文化学科2年次の英語劇ミュージカル指導をとおして国際言語学科所属教員と共同研究(分担指導作業)をおこなう。⑤毎年行っている「琉大ミュージカル」の授業の成果発表(8月)、音楽科の成果発表としての「音楽科発表会」(3月)においてパンフレット掲載の スポンサー広告掲載費を外部資金として獲得し、それぞれの発表会の運営費に充てていく。これらのチケット収入に関しては、大学へプロジェクト寄付金として一端預け、翌年のそれぞれの運営基盤経費に充てていく。⑥附属学校との共同研究を積極的に推進する。</p>		0.50	<p>①学部紀要に1編、センター紀要に1編、計2編の論文を上梓した。②沖縄及び東京でジョイント形式による研究発表(コンサート)を行った。③スペイン声楽曲の研究成果を基盤とする外部団体への指導を様々行った(東京都、香川県、福岡県)④平成28年度は、左記のプロジェクトを学生側から発案がなかったために立ち消えとなっている。来年度からは復活することを祈るばかりである。⑤左記の活動を行った。琉大ミュージカルに関しては、今年度は赤字会計となり、大学への寄付金は捻出出来なかった。この問題解消のために平成29年度の予算計画を現在綿密に立てているところである。音楽科発表会に関しては、学生主体の自主活動であるので、演奏の指導と演奏会への集客を高めるための宣伝活動に力を入れている。⑥附属小学校には、合唱祭のための各クラス担任への指揮指導講習会を開き、附属中に対しては、音楽科空の依頼を受けて、音楽の授業でカンツォーネの実演と、生徒の演奏に関する指導を行い、また音楽科教諭の研究授業への指導助言を積極的に行った。中学校学級合唱コンクールに代表参加するクラスに対して、合唱指導を行った。</p>
社会貢献	0.10	<p>①コンクールの審査等を通して、学外の音楽文化振興団体の主催する審議会に参画する。②専門分野における資料収集のため学外(海外を含む)への研究調査を積極的に行う。③小・中・高等学校からの依頼に応じて、専門分野の技術・理念を分かち合うワークショップ・講演会等を行う。④地域(海外を含む)における生涯学習の音楽活動に対し歌唱法・演奏法指導にも携わる。⑤国際貢献に関しては④に準ずる。⑥地域貢献に関しては③に準ずる。⑦協力所属専修(心理臨床科学)に関わるテーマに関して学外者・産業界関係者等より依頼があれば、カウンセリング等を行う。⑧本務に圧迫を与えない限りにおいて、兼任先(東京藝術大学、東京音楽大学、等)における教育活動を積極的に支援し、研究発表活動などの企画も行う。また他の教育機関からの指導要請にも時間の許す限り対応する。9、二期会、東京室内歌劇場などプロフェッショナル・オペラ・プロデューサー団体に所属する歌手たちの指導、音楽会の監修を行う。</p>		0.10	<p>①毎日新聞学生音楽コンクール北九州大会声楽部門の審査、第1回スペイン国際音楽コンクール声楽部門の審査を行った。②台湾における青年の合唱活動、器楽(ピアノ、フルート)の実態調査に、時間の許す限り台湾に訪問し研究調査を積極的に行った。③前述のように、附属小学校には、合唱祭のための各クラス担任への指揮指導講習会を開き、附属中に対しては、音楽科空の依頼を受けて、音楽の授業でカンツォーネの実演と、生徒の演奏に関する指導を行い、また音楽科教諭の研究授業への指導助言を積極的に行った。中学校学級合唱コンクールに代表参加するクラスに対して、合唱指導を行った。④神森中学校合唱部の練習に講師として関わり、呼吸法・発声法の基礎についての指導を中心に、楽曲の演奏法指導も行った。台湾のSGI青年部太平洋合唱団や台湾鈴木協会ピアノ科、フルート科の生徒に音楽指導を行い、台湾鈴木青年オーケストラにもアンサンブル指導を行った。⑤国際貢献に関しては④に準ずる。⑥前述のように、西原町との地域包括連携プログラムの音楽教育編をプロジェクトし、3年次を中心として、1～3年次学生を指導講師に加え、西原町の5つの小学校児童20名に対するワークショップ(全3回)を行った。⑦守秘義務により内容は伏せるが、要望があった際にはこれに対応した。⑧左記の2校において実技指導を行い、12月(東京音大大学院)、2月(東京藝大)に研究発表会を行った。⑨二期会においてコーチングと音楽会の監修指導を行った。東京室内歌劇場は平成29年5月に音楽会を持つ予定で、現在その指導が進行中である。</p>
管理運営	0.07	<p>①全学的委員会(URGCC委員会など)及び学部内の委員(教育委員)としての活動、責任を持って役職を遂行する。可能な限り会議に出席し、内容を所属専修に伝達報告し、協議事項を学科会議に提出し、回答を委員会へ持ち帰るよう責務を遂行する。②大学院教員組織(音楽教育専修)上の務め今年度は前年度に引き続き教室主任を果たし、音楽棟の安全・資産管理、予算の発案管理に積極的に参与する。③入試業務における役割分担を責任を持って遂行する。</p>		0.07	<p>①左記の業務を行った。自らが出張等で欠席の場合は前もって代理出席を他教員に依頼した。②左記の業務を責任を持って積極的に遂行した。③同上</p>
就職支援	0.03	<p>①就職関係:就職、教員採用試験関連の諸行事に関して、主任として各年次指導教員、音楽科学生へのインフォメーション呼びかけを積極的に行う②音楽療法的フィールドへの在学生の積極的なボランティア参加を促し、施設関係者への学生の資質アピールに努める。③音楽療法関係活動を推進する。</p>		0.03	<p>①左記の業務を積極的に行った。②今年度は、院生の研究テーマが音楽療法的介入であり、フィールドである、そうせいセンターへ赴き、院生の音楽活動に対する監督と助言を行った。③特に、附属病院ロビーにおける「癒しのコンサート」を学生とともに企画運営し、自らも音楽科の他教員とともに当日の演奏と解説を行った。</p>
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		森 まゆみ	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	教員免許取得に必須の教育課程である「伴奏法」について授業内容を改善する。29年度一括入試後の新生生に対応する授業内容を研究する。		0.30	教員免許取得のために必須の「伴奏法」について、ピアノ連弾だけでなく、歌曲伴奏、管楽器弦楽器のピアノ伴奏を含めて指導を多く行った。小学校教員としての自覚をもたせ、ミニ音大化しがちな学生の意識を一掃すべく、来年度から互いに学びあう、ピアノのアクティブラーニングの試行に向けて、授業の運営方法を考案中。試行錯誤しながら学生に説明を行う。改組に向けて、「音楽」161の授業内容改善の準備を現在行っている。	
研究	0.40	作曲家の没後100年の記念年に向けて行っていたエンリケ・グラナドスの公開講座の集大成として、その作曲家の大作「ゴエスカス」の発表を東京にて行う。昨年1年間の連載を行った音楽雑誌シヨパンでの連載「グラナドスの魅力」をこの1年も毎月続け、その解説を行う。		0.30	没後100年のグラナドスの晩年の大作を5月東京文化会館で発表、同5月に日本スペインピアノ音楽学会にて、論文「グラナドス概論」を発表。その後10月に彼の作品を俯瞰するプログラムで発表を行った。昨年からの音楽専門誌での毎月の連載は2年目に入り続行中である。12月に「九州音楽学会」でグラナドス作品を発表した。	
社会貢献	0.30	昨年設立した学会「日本スペインピアノ音楽学会」で論文集を発刊し、毎月の例会の開催と運営に努力し、学術的な質の向上、会員の確保とスペイン音楽の振興を目指す。		0.30	「日本スペインピアノ音楽学会」設立後、毎月の学会例会の企画と運営、自らも講演を行った。沖縄において「沖縄スペイン協会」を本年1月に設立し、会長として就任し、オープニングイベントを行った。毎月例会の企画を行う。スペイン国際音楽コンクール、スペインギターコンクールの審査員を行い、九州佐賀ではピアノ講師のための演奏法の指導を行った。	
管理運営	0.10	研究科主任と入試委員を務める。本年は、昇任人事選考委員も務める予定である。		0.10	研究課主任と入試委員を務めた。昇任人事選考委員を務めた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	岡田 恵美		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	
職 名	講師		業 務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	
業 務 ウエイト比 (実績)	0.50		業 務 ウエイト比 (実績)	0.55	
教育・学生支援	<p>1) 学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるような授業デザイン</p> <p>2) 映像・音響教材やPPTを使用した視聴覚効果の高い授業プレゼンテーション</p> <p>3) 教員採用試験を意識した授業内容および採用試験対策に関する個別支援</p> <p>4) 学生と教員による共同プロジェクトの推進</p> <p>5) 新入生合宿運営におけるCATS(学生合宿運営委員)への支援および指導</p> <p>6) 1年次指導教員としての学業面・生活面での意見聴取やサポート</p> <p>7) その他</p>	<p>1) 学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるような授業デザイン</p> <p>各学生がテーマを決めて調査を行い、それを授業でプレゼンテーションする機会を設けた。学生は発表内容やプレゼン方法など、互いに刺激し合って工夫する場面も多く見られ、自主性が高かつ対話型の学びの環境を提供できた。また、琉球大学WEBCLASSを利用して、毎授業回のワークシートやパワーポイント資料を事前にサイトにアップロードしておいたため、学生は好きな時にダウンロードをして予習や復習ができるユビキタス環境を提供することができた。</p> <p>レポートの作成においては、資料検索法やテーマの絞り方、書誌・音源情報の記載の仕方について記した手引書を作成・配布し、学生のリテラシー能力向上に力を入れた。またレポート提出においても、WEBCLASSを利用し、受講者が同システム上で、他の受講者のレポートを読み、ピアレビューをするといった学生間での学び合いの学習も導入した。</p> <p>一部の担当授業は今年度も「公開授業」とし、一般受講者(定員5名)にも発言の機会を設けることで、大学生同士では中々得られない世代を超えた経験や知識を全体で共有することができた。</p> <p>2) 映像・音響教材やPPTを使用した視聴覚効果の高い授業プレゼンテーション</p> <p>担当授業では、音源資料や映像資料、パワーポイントを効果的に用いた。また、担当している講義系科目において、各授業で使用するテキスト教材およびPPT教材をすべて独自に作成し、授業後に学習内容の振り返りが容易なように、できるだけ配布資料もWEBCLASS上に用意した。</p> <p>3) 教員採用試験を意識した授業内容および教授対策に関する個別支援</p> <p>専門科目においては、沖縄県の教員採用試験(中高音楽)の過去9年間の問題傾向を分析し、一部の授業では採用試験を意識した解説も行った。</p> <p>また認定試験の問題作成(小学校音楽、中高音楽)や解説セミナーの講師を今年度も担当した。学科の認定試験受験者に対しては、教採1次試験(中高音楽)に向けた勉強法や助言を頻繁に行い、2次試験対策として、三線の実技対策の機会を設けた。今年度も、中高音楽の現役合格者を輩出することができた。</p> <p>4) 学生と教員による共同プロジェクトの推進</p> <p>10月には、中国湖南省の中南林業科技大学の教員・学生4名を迎え、中国伝統楽器二胡との交流演奏会を実施した。音楽科の学生・一部の教員による三線演奏と二胡とのコラボレーションも行い、中国湖南省の民謡や沖縄の楽曲を演奏し、音楽を通じた国際交流を深めた。</p> <p>12月には、音楽科の一部の教員と学生が協同し、琉大病院のロビーにおいて入院患者の方々を対象とした「癒しのコンサート」を実施し、好評を得た。</p> <p>5) 新入生合宿運営におけるCATS(学生合宿運営委員)への支援および指導</p> <p>今年度4月の新入生合宿研修においてはCATSの支援を行った。事実上、教育学部全体で行う最後の合宿となり、後期に担当した「地域文化交流実習」では、幼稚園実習を通して「遊び」をテーマとした授業を実施した。</p> <p>6) 1年次指導教員としての学業・生活面での意見聴取やサポート</p> <p>指導教員の年次学生を中心に、合宿や懇談会を通して、学業や生活状況の把握を行い、重要な事項については頻りに連絡を取った。</p> <p>7) その他</p> <p>「韓国スタディーツアー」を企画し、音楽科学生を引率して、韓国の国立国楽院(ソウル)にて、国楽(韓国伝統音楽)の実践・舞台鑑賞や、現地の京仁教育大学(教員養成大学)、仁川市公立小学校にて国楽の授業を観察・調査した。</p>			
研究	<p>1) 科研費「基盤研究C」(代表者、初年度)の研究推進・海外調査実施</p> <p>2) 所属学会・共同研究会・シンポジウムでの発表および論文投稿</p> <p>3) 研究に関する出版物</p>	<p>1) 科研費「基盤研究C」(代表者、初年度)の研究推進・海外調査実施</p> <p>本年度は8月に3週間にわたって、研究対象地域であるインド北東部ナガランド州でポリフォニーの民謡に関するフィールド調査を実施した。また2017年3月には、インドの初等教育における音楽科教育に関する調査も現地でも実施予定である。</p> <p>2) 所属学会・共同研究会・シンポジウムでの発表および論文投稿</p> <p>今年度は2種の学会誌(『東洋音楽研究』『民族芸術』)に論文が掲載された。1)の科研調査で得た内容に関しては、11月の国立民族学博物館の現代南アジア芸能の研究集会で口頭発表を行った。</p> <p>3) 研究に関する出版物</p> <p>国立民族学博物館共同研究の研究成果の論集『環流するインド』が青弓社から8月に出版予定であったが(原稿提出済)、次年度出版に変更となった。</p> <p>次年度12月に丸善出版から刊行予定の『インド文化事典』の原稿を提出した。</p> <p>4) その他</p> <p>外部資金として「宇流麻研究助成」(国際交流部門)の助成金を賜った。</p>			
社会貢献	<p>1) 所属学会・委員会への参画(支部委員業務など)</p> <p>2) 教大協音楽部門ならびに全九州大学音楽学会での理事業務</p> <p>3) 音楽企画・シンポジウム企画・演奏活動</p>	<p>1) 所属学会・委員会への参画(支部委員業務など)</p> <p>昨年度に引き続き、「東洋音楽学会」の支部委員と情報委員を担当した。</p> <p>2) 教大協音楽部門ならびに全九州大学音楽学会での理事業務</p> <p>協議会に関わる承継事項の作成・回答を行い、12月の協議会に学科代表として出席した。また、同時開催される全九州大学音楽学会の理事業務を担当した。</p> <p>3) 音楽企画・シンポジウム企画・演奏活動</p> <p>国立劇場おきなわ大劇場にて、国際交流人材育成未来増進チャリティー公演「三華の色彩」(インド・バリ・琉球の舞踊と音楽)に、北インド古典楽器奏者として出演した。公演は各種新聞にも記事として大きく掲載され、好評を得た。</p>			
管理運営	<p>1) 委員会委員における貢献(新入生合宿運営、認定試験関係など)</p> <p>2) 所属学科の管理運営における貢献</p> <p>3) 入試関連業務における貢献</p>	<p>1) 委員会委員における貢献(新入生合宿運営、認定試験関係など)</p> <p>今年度も、学生生活委員の合宿ワーキングとして、4月の合宿の支援や、先述の「地域文化交流実習」の授業を担当した。</p> <p>また、教員採用試験セミナーの認定試験の問題作成、及びセミナーでの解説、学科学生へのフィードバックを行った。</p> <p>2) 所属学科の管理運営における貢献</p> <p>音楽棟の教室・練習室の使用管理、使用者ミーティングの実施等を担当した。</p> <p>3) 入試関連業務における貢献</p> <p>今年度も学部入試の問題作成や大学院入試の問題作成を行った。</p>			
計	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>			

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		永津 禎三	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	昨年度に引き続き授業改善に取り組み、授業内容の変更による教育効果を検証する。特に小学校教科科目「小専美術A」は、一昨年度の後学期から、「彫り進みリレー版画」を中心に制作や演習を主とする授業に大幅に変更、昨年度からはグループ学習を取り入れ、学習指導要領の内容を踏まえて「教材としての評価」をレポートさせることで、学生は問題意識を持ち意欲的に学ぶようになって来ている。更に、楽しく興味を持ち、深い考察に繋がる授業方法を模索する。		0.30	「小専美術A」の授業改善として、導入に「対話による意味生成的な美術鑑賞」を取り入れた。すなわち、これまで授業の最初に内間安理展を紹介して来たが、その前に何の予備知識を持たない時点で、内間の作品をこの方法で鑑賞してみた。非常に多様で興味深い反応や感想が得られ、授業の導入として大変に効果があったと思われる。また、グループ学習と発表の時間をゆったりと確保したため、学生は更に問題意識を持ち意欲的に学ぶようになった。今後も更に、楽しく興味を持ち、深い考察に繋がる授業方法を模索する。
研究	0.50	昨年度からまとめ始めた美術理論・美術史分野の論文の続編である、キュビズム、表現主義、アンリ・マティスを中心にしたテーマの論文を学部紀要等に発表する。 「彫り進みリレー版画」については、出来るだけ多くの実践例と制作レポートを集めて考察を深め、上記の論文が一段落したら、論文としてまとめる作業に着手する。		0.50	今年度は具志川小学校の校内研修で、L字型版木による多色刷り版画を行ない、多くの実践例を集めることができた。小専美術の授業での実践を含め、より考察を深めることが出来た。 美術理論・美術史分野の論文については、教育学部紀要第89集に「キュビズムと表現主義—美術理論・美術史基礎演習Vol.3—」を、第90集に「内間安理の芸術—その絵画空間を考察する—」を発表した。
社会 貢献	0.10	要請があれば、Advisory Staff 派遣事業や、美術館等の講演、ワークショップ等に協力する。		0.10	6月に浦添市美術館で「虹色のかけはし 内間安理のARTと浦添の移民100年展」が開催され、6月18日に講座&ギャラリートーク「内間安理のART」の講師を依頼され務めた。ここで、新たな知見を得られたので前述の論文にまとめた。 また、8月30日に具志川小学校の校内研修の講師を務め、「版画の学習指導のポイント」を実技体験を主に講じた。
管理 運営	0.10	教室主任および専修主任、教育実習委員としての職務を遂行する。		0.10	教室主任および専修主任、教育実習委員としての職務を遂行した。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		スプリ ティトウス	所 属	教育学部美術教育専修	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修のため平成28年度中一般的な教育や学生支援に対する活動は減少した。 海外から可能な程度で学部や学科の教育や学生支援の流れをフォローする。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> 海外から可能な程度で学部や学科の教育や学生支援の流れをフォローした。 	
研究	0.50	<ul style="list-style-type: none"> 28年4月から主にドイツでアートとまちづくりに関する海外研修を行う。 		0.50	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修中の研究活動が実施できた。 	
社会 貢献	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 研究の一環として公共講義、ワークショップ、展示会、町歩き、教育ボランティア、国際交流ファシリテーションなどの活動。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修中の研究活動が実施できた。 	
管理 運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修のため一般的な管理運営を減少する。 海外から可能な程度で管理運営の流れをフォローする。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> 海外から可能な程度で管理運営の流れをフォローした。 	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		仲間 伸恵	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	講師
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	赴任後3年間の授業内容を振り返り、改善に努める。 大学院教育学研究科の担当授業内容について、学生個人々の研究に添った授業内容を構築し、学生とともに研究に取り組む。		0.40	<ul style="list-style-type: none"> 各授業内容について改善に取り組んだ。織染演習等においては伝統工芸の産地へ出かけ、実際の現場の空気感を感じとってもらうことができた。 大学院科目においては、学生の研究テーマに添って、県内で活動している作家や県芸教諭への工房訪問インタビューの実践とまとめ、工芸産地見学など学外での学びや活動のサポートに努め、共に研究を進めることが出来た。 	
研究	0.40	「紙漉きを通して自然と文化を学ぶ体験学習」について、3年目に入る宮古島市と昨年からはじまった大宜味村での実践を進めながら、この体験学習プログラムの意義と課題について研究を進める。		0.40	<ul style="list-style-type: none"> 「紙漉きを通して自然と文化を学ぶ体験学習」について、継続して宮古島市や大宜味村における実践・研究を進めている。3年目となった宮古島市では、今年度から池間小中学校での活動もはじまり、内容的にも大きなねらいである「地域の自然と文化を地域の人と共に学ぶ」ということへと繋げることがうまく出来つつあると思う。大宜味小学校においては、はじめての卒業証書を地域の素材である芭蕉とシークワサーで創り上げる体験学習の実践ができた。 沖縄染織研究会において研究発表「宮古地域の手績み苧麻糸」を行い、現在その内容について研究会通信へ掲載予定の論文を作成中である。 宮古島市総合博物館の企画展「宮古の作家たち展」へ参加し作品を発表した。 	
社会 貢献	0.10	要請に応じて、工芸関係者の調査研究、事業等に協力する。		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 宮古の織物「すだーすめぬ展」における講演会講師を務めた。 大宜味村生涯学習講座において講師を務めた。 沖縄こどもみらい創造支援機構主催の伝統工芸を支える素材にふれる「苧麻紙漉き親子教室」の講師を務めた。 宮古苧麻績み保存会監事、宮古島市総合博物館協議会副会長を務めた。 	
管理 運営	0.10	学部教育委員として職務を遂行する。		0.10	学部教育委員としての職務を遂行した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		増澤 拓也	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	積極的に演習を取り入れた授業計画の実現 学生が学習利用できる心理実験プログラムの開発 学生から授業改善のための意見の聴取			0.35	実験演習を取り入れた授業を実施。 processingとWiiバランスボードを用いたCOPデータ算出プログラムの追加 分析プログラムを作成。 授業終了後、授業に対する意見聴取の時間を個別に実施。		
研究	0.35	研究雑誌に1編以上投稿する。 競争的研究資金を2件以上応募する。 学会(研究会)発表を2回以上おこなう。			0.30	研究雑誌に投稿中。 競争的研究資金に2件応募。 学会(研究会)で3回発表。 学術雑誌の連載執筆。		
社会 貢献	0.20	運動学習研究会への参加。 バランス勉強会への参加。 沖縄県マウンテンバイク大会の運営補助。 沖縄県クライミング国体代表への指導。			0.20	バランス勉強会への参加。 沖縄県マウンテンバイク大会の運営補助。 マウンテンバイクスクールの開催・指導。 沖縄県クライミング国体代表への指導。		
管理 運営	0.10	保健体育専修主任業務。			0.15	保健体育専修主任業務に従事。 改組に伴う人員の調整。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小野寺 清光	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	①電気電子系講義に関し、実践的な教育力を養なうことを目的に、学生自ら教材開発が構想できる実習内容を積極的に取り入れていく。また、講義レジュメはWeb上から取得できるように環境を整える。 ②附属中体験授業(7月)を実施する。 ③学部学生指導主任として、就職支援・進路指導に取り組む。			0.00	①電気電子系講義においては、ブレッドボードを用いて学生自らが試行錯誤して回路を考える実習を増やし、また、計測・制御に関連する電磁リレーを用いたロボット製作などの教材開発を取り入れた。 ②附属中3年生を対象に、「情報通信技術と今後の私たちの生活」と題し、コンピュータと情報通信の発展、及びそれに伴う社会への影響に関する体験授業を実施した(11月)。 ③学生生活委員会委員長として、新入生合宿、教員採用試験対策セミナーや認定試験の運営を継続的に推進した。今年度後期は、3年次学生の中から有志を募り、学生生活委員会教員と共に教採関連する新たな取り組みを模索した。		
研究	0.20	①中学生に対するプログラミング教育環境の構築および、プログラミングによる計測・制御教材の研究開発を行う。 ②LEDや圧電素子を用いたエネルギー変換に関する教材開発を行う。			0.00	①ラジコンプログラミング教材を開発して附属中にて研究授業を実施した研究会を学会発表し、また同内容を論文として投稿し採録が決定した(12月)。 ②エネルギー変換に関わり風力発電機を題材として取り上げ、特に、ブレード設定角に焦点をあてた中学校技術の教材を開発した。		
社会 貢献	0.10	①教員免許状更新講習(7月)の講師として現職教員教育に貢献する。 ②日本産業技術教育学会九州支部理事として学会運営に取り組む。			0.00	①石垣市において「LEDを用いた実験とものづくり」と題して、小学校から高校の現職教員に対し、教員免許状更新講習を実施した(7月)。 ②日本産業技術教育学会九州支部理事として学会運営に取り組んだ。九州支部大会にて発表された2件の論文の査読を実施した。		
管理 運営	0.40	①副学部長及び学校教育教員養成課程長として、学部運営・将来構想企画に取り組む。 ②学生生活委員会委員長として、委員会の円滑な運営に取り組む。			0.00	①副学部長として、H29学部改組に関わる学部運営・将来構想企画に取り組んだ。また大学機関別認証評価に係る自己評価(H29年度)の自己点検および評価書作成にも取り組んだ。 ②学生生活委員会委員長として、年間7回の委員会を開催し、学生の生活指導・就職学修支援等に関わる運営に取り組んだ。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	福田 英昭		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程 技術教育専修	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	①「職業指導」(前期および夏の工学部集中講義)の毎回の講義内容を公開するため、研究室のホームページを毎週更新する。②5年前から新設開講された前期の「小学校ものづくり実習Ⅰ」および後期の「小学校ものづくり実習Ⅱ」の講義の新規教材開発を行う。③研究成果の内容を「木材材料学」の講義内容に反映させる。④講義「ものづくり」において、新規の製作題材を開発する。⑤2年次の指導教員として、技術教育専修学生と大学院生の履修指導等を行い、進路相談を行う。⑥「職業指導」の講義で受講学生に最新の就職関連情報を提供する。⑦技術教育同窓会の書記・会計担当者として企画・運営を行い、また、技術教育専修の卒業生の動向をチェックし、会員データベースを最新のものにする。		0.30	①「職業指導」を前期および夏期集中講義で実施し、講義用のホームページを毎週更新した。②「小学校ものづくり実習Ⅰ」(前期)および「小学校ものづくり実習Ⅱ」(後期)では、様々なタイプの紙飛行機や模型飛行機を製作し、11月に受講生と共に大宜味小学校において1~6年生21名を対象に「わんぱく紙ヒコキCUP 2016」を実施し、ペットボトルロケット飛行実験も行った。③研究成果の内容を「木材材料学」に反映させた。④講義「ものづくり」では、学生たちに新規で牛乳パックギター、段ボール空気砲、笛、コマなど26製作題材を発表してもらった。⑤2年次指導教員として、履修指導や進路相談を行った。⑥「職業指導」では最新の就職関連情報を提供し、ゲスト・ティーチャー1名を招いて講話をしていただいた。⑦技術教育同窓会の書記・会計担当者として会員名簿の更新を行った。⑧「木材加工及び実習」(後期)では、10月に2週にわたり附属小学校3年3組の児童35名と共に、木工室で野外用のベンチづくりと看板づくりを学生たちと行い、公園に設置した。	
研究	0.25	①研究室の紹介および研究成果を紹介するため、研究室のホームページを更新する。②前村(社会)、岡本(技術)、仲間(美術)先生と共に5年前からスタートした紙漉き研究会を継続し、紙漉きの新しい教材・教具(賞析など)を開発し、地域の小・中学校で紙漉き体験学習を実施する。また、紙漉きに関する論文を本年度も学部紀要等に投稿する。③教育学部プロジェクトとして琉球大学の戦略的教育支援等推進経費申請書(事業名)教員養成カリキュラムを充実させる児童生徒支援を兼ねた多様な教育活動の展開を提出し、紙漉き体験学習を実施する。④農学部の鬼頭、橋先生らと共同で、琉球大学の研究プロジェクト推進経費(戦略的研究推進経費の萌芽研究)申請書(事業名)沖縄の耕作放棄地で栽培した植物による伝統食品、伝統工芸品の新規原料としての利用と教育活動を提出し、紙漉き原料となる繊維植物を栽培し、教材化を行う。⑤東京書籍株式会社の中学校教科書「技術・家庭科」編集協力委託委員を担当し、教科書の編集を行う。		0.25	①研究室のホームページでは「職業指導」関連の更新は頻繁に行ったが、研究室紹介と研究成果紹介の更新は不十分であった。②前村・仲間・岡本先生と共に進めている紙漉き研究会を継続し、8月には、教職員・一般向けに和紙づくり工程が体験できる研修会(3日間)を大学で開催した。また11月には、「第7回 体験!琉球大学」として、附属中学校3年生15名を対象に、紙の力の講話と紙漉き体験講座を行った。なお、本年度は学部紀要への投稿はデータ集計中のため見送った。③戦略的教育支援等推進経費を活用し、12月には、中城村立中城南小学校の6年生の児童(約50名)を対象に2日間の紙漉き体験学習を開催した。また、11月には、県立美咲特別支援学校はなさき分校における手作り和紙による卒業証書づくりを支援した。④琉球大学の研究プロジェクト推進経費を農学部の鬼頭先生らと共同で申請したが、採択されなかった。また、10月には三井物産環境基金の研究助成に、鬼頭先生らと「農と教育を核とした環境保全型地方創生モデルの構築」のテーマで新たに申請を行った(申請中)。⑤東京書籍株式会社の中学校教科書「技術・家庭科」編集協力委託委員を担当し、教科書の編集を担当した。⑥日本産業技術教育学会の技術教育分科会の教員で、教育学部学生向けの教科書「新技術科総論(仮名)」を執筆することになり、木材分野を担当することになった(原稿作成中、H29年12月出版予定)。⑦商業雑誌「チルチンびと」(風土社)から執筆依頼のあった記事「子どもの体に合った家具の選び方」が4月号に掲載された。	
社会 貢献	0.15	①沖縄県立芸術大学において開講される「図法及び製図」(通年)の非常勤講師を担当する。②教育学部が連携協定を結ぶ県市町村の教育委員会と連携して、小・中学校の校内研究会や研修会、児童生徒の学習支援等をサポートする。③教育学部のアドバイザースタッフ派遣制度による依頼受付と派遣実施を総括し、県内の小中学校の活動を支援する。④沖縄県立南部商業高等学校 学校評議員を担当する。⑤日本木材学会九州支部の理事および評議員を担当する。		0.15	①沖縄県立芸術大学で「図法及び製図」を通年で担当した。②教育学部が連携協定を結ぶ市町村の教育委員会と連携し、小・中学校の校内研究会や研修会、大学生による学習支援ボランティア活動をサポートし、各地域での教育委員会と教育学部の連携推進会議に参加した。③教育学部のアドバイザースタッフ派遣制度のパンフレットを作成して各教育機関へ配付し、県内の小中高校と特別支援学校の取組を支援した。④県立南部商業高校・やえせ高等支援学校の学校評議員を担当し、会議に出席した。⑤日本木材学会九州支部の理事および評議員を担当したが、本年度は会議への参加はできなかった。⑥日本産業技術教育学会誌九州支部論文集の査読1件を担当した。また、福岡教育大学紀要のピアレビュー(査読)を1件担当した。⑦第2回琉球新報教育賞の選考委員(5月~12月)を担当した。	
管理 運営	0.30	①教育学部附属教育実践総合センター長として、教育実習、介護等体験実習、地域連携事業の企画・運営をする。②琉球大学の教員養成運営委員会(全学)と地域連携推進会議委員会(全学)の委員を担当する。③学部運営会議の委員として企画・運営をする。④日本教育大学協会九州地区技術教育部門の全国委員を担当する。6月開催の教大協九州地区技術教育部門研究協議会の当番校として企画・運営する。		0.30	①教育学部附属教育実践総合センター長として、教育実習委員長を担当し、介護等体験実習や地域連携事業の企画・運営を行った。また、実践センターの教員会議の議長を担当した。②教員養成運営委員会(全学)と地域連携推進会議委員会(全学)の委員を担当し、沖縄県教員の資質向上連絡協議会(年2回)に出席した。また、教職課程の「全学的総括体制」の組織整備に関する検討委員会の委員として、教職センター設立に向けて検討を行った。③学部運営会議の委員として企画・運営を行った。④日本教育大学協会九州地区技術教育部門の全国委員を担当し、6月に沖縄で開催された教大協九州地区技術教育部門研究協議会の当番校委員として企画・運営を担当した。⑤学部の教員選考委員として、幼児教育と実践センターの採用2件を担当した(幼児教育では選考委員長を担当)。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		清水 洋一	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.35	1)前期・後期合わせて学部14科目(卒業研究Ⅰ・Ⅱ含む)、大学院2科目(課題研究ⅡA・ⅡB)の講義・実習等を行う。2)卒業研究1名及び修士論文3名の指導を行う。3)附属中学校の研究授業の支援や教材開発を協同で行なう。5)外国人留学生(研究科1名)の指導教員を務める。6)総合環境学副専攻・「総合環境学概論」を2コマ担当する。7)教員採用試験対策の一環として、講義・実習等を通して、関連する過去問題について解説する。		0.30	1)前期・後期合わせて学部14科目(卒業研究Ⅰ・Ⅱ含む)、大学院2科目(課題研究ⅡA・ⅡB)の講義・実習等を行った。2)卒業研究1名及び修士論文3名の指導を行った。3)附属中学校の研究授業の支援及び教材開発を協同で行なった。5)外国人留学生(研究科1名)の指導教員を務めた。6)総合環境学副専攻・「総合環境学概論」を2コマ担当した。7)教員採用試験対策の一環として講義・実習等を通して、適宜関連する過去問題について解説した。
研究	0.35	1)日本エネルギー環境教育学会、日本産業技術教育学会等において研究発表を行う。2)沖縄エネルギー環境教育研究会の代表を務め研究・教育実践を行う。3)海洋エネルギーに関する教材開発及び教育実践を行う。4)宮崎大学と海洋エネルギー教育に関する共同研究を推進する。5)本年度科研費助成事業で採択された挑戦的萌芽研究を行う。		0.40	1)日本エネルギー環境教育学会第11回全国大会(札幌市)、日本産業技術教育学会第59回全国大会(京都教育大学)、同学会第29回九州支部大会(長崎大学)にて研究発表を行った。2)沖縄エネルギー環境教育研究会及び沖縄エネルギー教育地域会議の代表を務め研究・教育実践を行った。3)沖縄エネルギー環境教育研究会の主催で、佐賀県と福井県のエネルギー関連施設見学会を実施した。4)海洋エネルギーに関する教材開発を行った。5)宮崎大学及び滋賀大学と海洋教育に関する共同研究を行った。6)本年度科研費助成事業の挑戦的萌芽研究において、教材開発、出前授業(多良間中学校)及び研究発表を行った。
社会 貢献	0.20	1)平成28年度琉球大学公開講座を実施する。2)小・中学校等で出前授業を実施する。3)沖縄の産業まつり、県民環境フェア等にて、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行う。4)琉球大学生協・理事長を務める。5)那覇市温暖化対策協議会・会長を務める。6)環金武湾地球温暖化対策地域協議会・会長を務める。7)沖縄地方コージェネ協議会・会長を務める。8)スマートコミュニティFS事業の委員を務める。9)教員免許状更新講習の講師を務める。10)沖縄県委託事業・サイエンスリーダー育成講座の講師を務める。11)沖縄青少年科学作品展の作品審査会・委員を務める。		0.25	1)平成28年度琉球大学公開講座を2回実施した。2)那覇市立・松川小、さつき小、興南中学校で出前授業を実施した。3)県民環境フェアにて、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行った。4)琉球大学生協・理事長を務めた。5)那覇市温暖化対策協議会・会長を務めた。6)環金武湾地球温暖化対策地域協議会・会長を務めた。7)沖縄地方コージェネ協議会・会長を務めた。8)那覇市スマートコミュニティFS事業の委員長を務めた。9)教員免許状更新講習の講師を務めた。10)沖縄県委託事業・サイエンスリーダー育成講座の講師を務めた。11)沖縄青少年科学作品展の作品審査会・委員を務めた。12)県委託事業の評価検討委員を務めた。13)海洋エネルギーWG推進委員会委員を務めた。
管理 運営	0.10	1)全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員を務める。2)共同研究推進委員会委員を務める。3)教育実践総合センター運営委員を務める。4)財務・施設管理に関する自己点検・評価委員会委員を務める。		0.05	1)全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員を務めた。2)共同研究推進委員会委員を務めた。3)教育実践総合センター運営委員を務めた。4)財務・施設管理に関する自己点検・評価委員会委員を務めた。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		岡本牧子	所 属	教育学部 学校教員養成課程	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.35	講義における採用試験対策の実施、3年次指導教員として個別の履修指導		0.35	技術科教育法Bの2コマを使い、H27年度沖縄県教員採用試験を解いてもらい、学生自ら解答を説明する授業を行った。工業高校の教員志望者には、採用試験の過去問の入手先を案内した。卒業困難な学生に対し、卒業要件を満たすよう時間割を共に作成するなど履修指導を行った。	
研究	0.30	学会誌への投稿		0.35	日本産業技術教育学会(京都)で発表を行った。修正した内容を2月末日に日本産業技術教育学会誌に投稿予定。「学校現場におけるアオガンピ栽培の教材化」が科研に採用され、校内に移植されたアオガンピを用いて種子の採取に成功した。「和紙作りを通した離島・へき地におけるSTEM教育カリキュラムの開発」が学内の競争的資金(グループ研究)に採択され、宮古島や大宜味村の小中学校で実践を行うことができた。	
社会貢献	0.25	青少年科学作品展への出展 沖縄県の技術科研究会への参加		0.25	第39回沖縄県青少年科学作品展の科学教室へ出展、アメリカンスクールからの出品作品の審査・講評を行った。資源エネルギー庁が主催するエネルギー地域会議(沖縄)の委員となり、モデル校やオブザーバー企業との調整を行った。	
管理運営	0.10	委員会委員を担当 島嶼防災センターの併任教員		0.05	入試委員を担当し、入試関連業務や高校への大学案内を行った。学内島嶼防災センターの併任教員を担当した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		新垣 学	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.45	<ul style="list-style-type: none"> 組込型コンピュータを利用した教材を授業に取り入れる。 学生が学習結果を発表および卒業後も復習できるように、ホームページを製作する能力を養成するとともにその更新を支援する。 学生へ学習環境を提供するため、ネットワーク及びコンピュータの管理。 教育実習生への指導・助言 就職支援のために認定試験問題の作成を行う。 		0.45	<ul style="list-style-type: none"> 小学校でのプログラミング学習の導入に先駆け情報科学演習の授業にプログラミングを導入した。 組込型コンピュータを利用した自立走行車の製作を授業に取り入れた。 学生が学習結果を発表および卒業後も復習できるように、ホームページを製作する能力を養成するとともにその更新を支援した。 学生へ学習環境を提供するため、ネットワーク及びコンピュータの管理を行った。 教育実習生3名の授業を観察し、指導・助言を行った。 認定試験問題として中学校技術および一般教養の情報と、中学校技術の栽培分野の問題作成を行った。 	
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領を鑑みた組込型コンピュータを利用した教材開発。 教員免許更新講習用教材の開発 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> これまで教員免許状更新講習で使用していた組込型コンピュータを別のものに置き換えて教材化できるか実験及び検討を行った。 	
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 教員免許状更新講習を開講する。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> 第60回九州地区中学校技術・家庭科教育研究大会に向けての指導助言および講評を行った。 教員免許状更新講習を2回行った。 	
管理 運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 審査委員会の委員としての業務を行う。 教育委員会委員としての業務を行う。 入試に関する業務を行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 発明審査委員会の委員として業務を毎月行った。 教育委員会委員としての業務を行った。 入試に関する問題作成を行った。 	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		花城 梨枝子	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	授業内容に最新のデータを使う。			0.20	授業は、最後の授業なので、最新のデータに直した。 授業の後任が決まらないことから、教員免許にかかわるすべての授業を先取りして開講した。 結果は残念であったが、教員採用試験2次のための模擬授業等の指導をした。		
研究	0.60	消費者市民教育について研究をすすめる。			0.60	科研を学術図書で応募するために「消費者市民教育で創るよりよい社会」をまとめた。結果は来年度となる。		
社会 貢献	0.20	NPO消費者市民ネット沖縄理事 沖縄クレサラ被害をなくす会幹事			0.20	消費者市民ネットは、差し止め訴訟件をもつ適格消費者団体をめざしており、 あと数ヶ月以内取れる見込みとなっている。 日本消費者教育学会の理事を10月まで勤めた。 日本消費者学会誌査読1報		
管理 運営	0.00				0.00			
					0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平良 勝明	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	英国や米国の最新記事や文学作品をホームページやビデオ等を介して教材として使用し、学生の英語圏への文化的理解を深めるとともに言語学習意欲も最大限刺激する教育を目指す。既卒性や在学生と小まめに連絡を取り学生の教育並びに生活・進路指導に貢献する。			0.40	最新のニュースや記事を逐次配信しているインターネットサイトやイギリスのテレビ番組その他のメディアコンテンツを利用して学生の英語圏への文化的理解の助長に努めた結果、学生の学習意欲や知識習得の向上に貢献することができた。既卒性や在学生と小まめに連絡を取り学生の教育並びに生活・進路指導に貢献することができた。		
研究	0.35	Virginia Woolfの作品における断片的かつ融合的な意識世界の展開に関する論文を執筆する。			0.35	Virginia Woolfの前衛的で流動的な意識世界を研究・分析してそれを二編の論文に纏めて紀要等で発表することができた。		
社会 貢献	0.20	ホームページ(http://www.cc.u-ryukyu.ac.jp/~iluvelyn/)を利用して英語の世界(言語ならびに文化)に親しみ、そして浸れるインターフェイスの構築ならびに充実を図る。地域に関わる論文の翻訳を通してローカルな文化とグローバルな文化の接点の構築、開拓に貢献する。			0.20	ホームページ、そしてマルチメディアコンテンツを利用した英語の世界そしてその文化に親しむことが可能なインターフェイスの整備・充実に取り組むことができた。地域に関わる論文の翻訳を通してローカルな文化とグローバルな文化の接点の構築、開拓に貢献することができた。中学校免許更新講習を通して地域の教育に貢献することができた。		
管理 運営	0.05	入試委員として学生への広報、そして優秀な人材の獲得に貢献する。			0.05	入試委員として学生への広報、そして優秀な人材の獲得に貢献することができた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	大城 賢		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	
職 名			職 名	教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	大学院:大学院3年次学生(現職教員)の指導教員として見通しをもった論文指導を行う。学部:英語科教育法A, B及び外国語活動のクラスにおいては学生中心の講義を展開し、年度末には授業記録をまとめ、次年度の講義に活かす。教職実践研究・演習においては、学生のニーズに合わせた多様な体験活動及び演習等を行う。		0.30	大学院:大学院3年次学生(現職教員)の指導教員として論文指導を行った。学校現場の忙しさもあって論文作成は数々の困難があったが、何とか書き上げることができ、修了させることができた。英語科教育法A, B及び外国語活動のクラスにおいては、ディスカッションを授業に取り入れ、学生中心の授業を展開することができた。学生には、毎回、授業リフレクションを書かせ、メールで送信させた。教職実践研究・演習においては、学生のニーズに合わせた多様な体験活動及び演習等を行った。
研究	0.20	文部科学省からの委託事業である「小学校英語教科化に向けた小学校教員の専門性向上のための免許法認定講習の開発・実施」事業を推進し、実施結果を報告書にまとめる。		0.20	文部科学省からの委託事業である「小学校英語教科化に向けた小学校教員の専門性向上のための免許法認定講習の開発・実施」事業の一環として、免許認定講習の資料などを整理し、報告書としてまとめることができた。
社会 貢献	0.40	小学校の外国語活動及び中学校、高等学校の英語指導法に関するセミナーや講演などを通じて地域への貢献を行う。		0.40	対外的な活動として、次の活動を行った:①文部科学省「研究開発学校企画評価会議」委員、②文部科学省「英語教育強化拠点事業」審査委員(主査)、③文部科学省学習指導要領作成委員(副主査)、④文部科学省学習指導要領解説書作成委員、⑤文部科学省教材開発作成委員、⑥文部科学省教材開発作成検討委員、⑦日本児童英語教育学会副会長、⑧小学校英語教育学会常任理事、⑨沖縄県浦添市英語教育推進委員会委員。以下の大会にて指導助言及び講演を行った:①石川県教育センター(6月10日)、②大牟田市中学校英語教育研究会(7月25日)、③室戸市教育委員会英語教育講演会(7月27日)、④福岡県教育センター講演会(9月29日)、⑤佐賀県三田川小学校研究発表会(11月25日)、⑥鳴門市林崎小学校研究発表会(12月8日)、⑦沖縄県教育センター講演会(12月26日)、⑧大牟田市小学校英語教育研究会(1月18日)、⑨全国小学校英語活動実践研究大会(2月3日~4日)、⑩英語教員の英語力・指導力向上シンポジウム(文科省)(3月20日) 他。
管理 運営	0.00	特になし		0.00	特になし
進路 指導	0.10	3年次の指導教員として適切な進路指導を行う。		0.10	3年次指導教員として学生の適切な進路指導などを行った。
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小林 正臣	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.45	①教育学部指定および英語教育専修指定の授業における英語力向上に努める。 ②上記以外の学部の授業における総合的向上に努める。 ③大学院の授業において校種を超えた英語教育の努める。			0.45	①「大学英語」(教育学部指定クラス)などの共通教育科目では、英語に対する苦手意識を軽減するために副教材等を導入した。今後も継続して英語力の向上に向けての努力と工夫を行いたい。 ②「英米文学特殊講義」と「比較文学」においては、英米文学だけでなく「英語文学」として幅広い視点を提示するなどの工夫をした。今後も継続していきたい。 ③「発問」によるアクティブ・ラーニングを追求し、教授法の可能性を拡大できた。		
研究	0.40	①科研費による研究成果を示すために学会誌に投稿する。 ②新たに入会した学会で、研究の更なる充実化を図る。			0.40	①予定した年間計画を概ね実施できた。その成果として、学会誌に投稿するための研究論文を執筆中である。 ②学会誌に投稿した研究論文は、残念ながら不採用であったが、査読に基づくコメントを今後の研究に役立てたい。		
社会貢献	0.05	①学外からの依頼で幼稚園免許取得希望者への英語教育を定期的に行う。			0.05	①学内では教えることが稀有である幼稚園免許取得希望者に向けた英語教育は、新たな経験と知見を得ることができた。今後も継続して行うつもりである。		
管理運営	0.10	①学生生活委員としての業務全般を遂行する。 ②4年次指導教員として、履修・その他の指導を適切に行う。			0.10	①全般的な任務を行うとともに、WGにおける頻繁な話し合いにも随時参加することで、今後に向けた具体的な取り組み課題を見出すことができた。 ②指導教員として、卒業に向けての全般的な対応、および未履修科目に対して授業を開講する等の対応を行った。		
管理運営	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	深澤 真		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	
職 名	准教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	<p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークやグループワーク、相互評価等を活用し、可能な限りアクティブラーニングを取り入れた授業を実施する。 ・ICTを活用し授業の効率化を図るとともに、オンライン教材を活用し学生の自律的学習を支援する。 ・アンケートを1学期につき2回実施することにより、授業改善に役立てる。 <p>【学生支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次担当教員として、面談を各学期1回ずつ実施し、大学生活、学習や各種実習、留学などのための支援を行う。 	0.40	<p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションのほか、ディスカッションなども多く取り入れ、学生がお互いに学び合える授業を展開することができた。 ・オンライン教材であるALC Net Academy 2を活用して、授業だけでなく学外での自律的学習を行う機会を積極的に設けた。 ・アンケートについては、1学期につき1回にとどまったが、大学用に加え、記述式のアンケートも行い、授業のフィードバックを得るとともに、次年度への授業改善に役立てる予定である。 <p>【学生支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談を各学期1回ずつ実施し、大学生活や今後の履修などについて支援を行った。また、メールなどを通して、講演会や留学など学生に必要と思われる情報を提供している。 	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費の応募を行う。 ・学会での研究発表や学会誌等への論文の投稿を行う。 ・研究分担者として、ロールプレイの評価に関する実験・研究を支援する。 	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育に関するテーマで、科研費に応募した。 ・全国英語教育学会、韓国言語テスト学会、環太平洋第二言語研究フォーラムにおいて研究発表を行った。また、ロールプレイを活用したテストに関する論文、および英語イメージ教育に関する報告書を執筆(ともに共著)した。 ・研究分担者として、ロールプレイに関する分析に協力した(発表は、上述の環太平洋第二言語研究フォーラムにて。論文についても上述の通り)。 	
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・研究分野についての識見を現職教員のための講習に活かし、教員免許状更新講習を実施する。 ・全国英語教育学会事務局として事務局長を補佐し、学会の円滑な運営に努める。 ・日本語テスト学会事務局として学会の円滑な運営に寄与する。 	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・評価について教員免許状更新講習を行った。また、2020年度から始まる小学校英語の教科化に向け、小学校教員を対象とした免許状認定講習を行なった。 ・全国英語教育学会事務局の財務部部長として学会の運営を行った。 ・日本語テスト学会事務局として全国研究大会を始め、学会の運営を支援した。 	
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学部教育実習委員会の教職体験部長として、小中学校、教員、学生との連絡を密に取り合いながら、学生の教職体験を円滑に実施する。 ・FD委員会委員として、全学の英語統一試験の実施運営にあたる。 ・投票管理委員として、投票の円滑な実施に努める。 	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学部教育実習委員会の教職体験部長として、附属学校、大学教職員、学生と連絡を取り合いながら、主に教職体験Ⅰの円滑な運営に努めるとともに、評価方法の改善を行った。 ・FD委員会委員として、全学の英語統一試験の実施運営を行った。 ・投票管理委員長として、投票活動が円滑かつ公正に行われるよう委員会活動を行なった。 ・入試委員として、入試の作成等を行った。 	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小田切 忠人	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	研究科では数学教育専攻の、学部では教育実践学専修および数学教育専修の講義やゼミを分担する。また、学部の認定試験問題の作成や解説に協力する。			0.25	予定した講義・ゼミなど、計画通り実施した。特に、ゼミでは、卒論に向けて学生の興味関心を引き出すように留意した。		
研究	0.25	昨年度までの科研費研究「基礎数学学習にスペシャル・ニーズのある子への教育介入データベースの活用」に続け、科研費研究「『数と計算』領域の学習にスペシャル・ニーズのある子どもたちへの教育介入教材の開発」を開始する。			0.20	三年計画の科研費研究の一年目をスタートさせることができた。前の科研費研究の継続発展で、その成果は数学教室に連載し、平成29年3月号をもって、一区切りできた(29回連載)。		
社会 貢献	0.05	学部の地域連携事業や現場教師の研究会などに参加し、教育現場の授業づくりを支援する。			0.05	毎月、火曜日と木曜日に現場教師との研究会を開いてきた。		
管理 運営	0.45	学部長として大学と学部の業務を遂行する。特に、教職大学院設置を踏まえた、また、学部改組に向けた学部運営の整備を進める。			0.50	教授会の理解と協力を得て、教職大学院を開設できた。また、平成29年年4月の学部改組を何とか準備できた。人経費の縮減が続く中で難しい課題に直面しながらであったが、毎週学部運営会議を開くことで対応してきた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	松本 由香		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	
職 名			職 名	教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.35	被服学および教育実践学の専門科目の授業準備を充分に行い、専門性の高い教育を行う。そして受講学生の授業目標の達成をはかる。また教育実践学専修3年次の担任、学生生活委員として、学生生活全般をきめ細かくケアする。	0.35	平成26・27年度に続き、地域志向教育推進事業経費を受け、前期「衣生活学特講」でアメリジアンスクール・イン・オキナワでの家庭科出前授業、後期「服装文化論」で沖縄の染め織り体験・産地見学実習を行った。戦略的教育支援等推進経費を受けて、前期「服飾意匠」では、藍染めの衣服製作、また後期「教育臨床研究Ⅱ」では藍染め、紅型染めの実習と染め織り産地見学を行い、衣生活領域での沖縄の特色ある題材・教材研究につながる授業を行った。授業を通して、地元の教育課題をとらえ、解決する人材育成に取り組んだ。 教育実践学専修3年次の担任として、出席と単位取得不足の学生の長期ケアなど、必要な学生に個別のケアを行った。	
研究	0.35	科研費研究として、昨年引き続き、沖縄の染め織りの現在について、調査研究を行う。今年度、「染め織りの地域文化の探求としての意味」をテーマに、沖縄本島、宮古島で調査研究を行う。昨年度の研究成果を、5月開催予定の日本家政学会大会で研究発表する。もう一つの研究テーマとして、アメリジアンスクールでの家庭科・手芸教育を通して、フリースクールでの手芸教育の意義について研究していく。	0.35	科研費研究として、「染め織りによる地域文化の探求」をテーマに、沖縄本島、宮古島、多良間島で調査を行い、その報告書をまとめた。本研究内容を、平成29年5月開催の日本家政学会で研究発表する予定である。また昨年度の科研費調査結果を、平成29年2月刊行予定の『教育学部紀要』に掲載する。生活科学教育専修で指導した子ども服に関する卒業論文を、平成29年3月刊行予定の『教育実践総合センター紀要』に掲載する。さらに日本家庭科教育学会の共同研究として報告書『外国につながる児童の家庭科をめぐる現状の検討』を刊行した。アメリジアンスクールでの家庭科指導については、生活科学教育専修4年次の卒業論文としてまとめていて、今後、紀要等で報告する。	
社会貢献	0.15	小・中・高校教師を対象にした教員免許状更新講習での衣生活をテーマとする講習会、一般を対象にした単年洋裁の公開講座を実施し、広く地域社会に被服学・洋裁を広めていきたい。 アメリジアンスクールで家庭科手芸教育を行うことで、学生とスクールの生徒をつなげ、学生にとっては地域生活の理解、スクールの生徒にとっては手芸の生活での意義を認識してもらい、地域社会に貢献する。	0.15	8月に教員免許状更新講習、9月に公開講座を実施し、被服学・洋裁を家庭科教員および一般に広げる社会教育活動を行った。 アメリジアンスクールでは、学生とともに、家庭科衣生活領域の出前授業を行った。学生には地域・国際理解をうながし、スクールの子どもにはより快適で豊かな生活を営む一助となったと思う。 9月に調査した宮古島では、下地市長と面談し、糸績み教室の意義について意見を述べた。このことが宮古毎日新聞(9月21日付け)に取り上げられ、宮古島の人々に宮古上布の再認識をうながす契機になったかと思う。	
管理運営	0.15	教育実践学専修での学生生活委員、3年次担任として、大学での管理運営の一役を担う。	0.15	学生生活委員として、教採試験対策セミナー開催のため、教育実践学専修の学生が行っている教員採用試験対策について調べるなど、運営の一役を担った。 教員選考調査作成委員会委員として、2件の教員の昇任人事にたずさわり、大学での管理運営の一役を担った。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		上地 完治	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	○大学院「学校教育の理論と実践Ⅰ」(必修)の担当者として、科目をあたらしくした意義を意識して、理論と実践の往還を意識した授業づくりをする。 ○学部教職科目(必修)「道德教育の研究」の授業を、学生の道德授業実践に効果的につながるように改善を工夫する。 ○学部2年生の指導教員として、学生が適切にゼミ配属されるよう指導助言する。			0.20	大学院授業「学校教育の理論と実践Ⅰ」の道德教育に関する領域を担当し、道德の理論や実践、さらにはその背後にある教育的な視点を有機的につなげた授業を提供することができた。学部2年生の指導教員としての仕事は、同僚の指導教員に多くを担ってもらった。		
研究	0.30	○現在おこなっている科研の共同研究に力を入れるとともに、代表として申請する研究プロジェクトの次年度採択をめざして、研究ならびに研究体制作りをすすめる。			0.05	今年は管理運営に予想以上の時間を割かれたこともあって、ほとんど研究を進めることができなかった。		
社会 貢献	0.20	昨年度に引き続き、附属小学校、中城南小学校、嘉数中学校へ、また、今年度から附属中学校へ道德授業改善の指導助言をおこなう。			0.25	例年通りの附属小学校教員との年間を通じた実践的共同研究に加えて、中城南小学校(4回)、嘉数中学校(4回)、附属中学校(3回)、宜野湾市教育研究所長期研修員(半年)、その他の学校(3回)など多くの学校・教員と指導助言の立場で関わった。		
管理 運営	0.30	学部改組WGとしての役目を全うし、次の小学校教育コース(教育実践学専修)のコース・専修設計に協力する。そのほか、教室主任としてミスなく教室運営に努める。			0.50	学部改組WGの仕事と、改組後の教育実践学専修の主任及び学校教育専攻の世話人として、組織作り、カリキュラムづくり、入試の実施などに関わった。また、教育学講座の世話人として3件の人事案件に関わり、その結果、想定以上の膨大な時間を管理運営に費やすことになってしまった。		
	0.00				0.00			
計	1.00				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		上村 豊	所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	特に、小学校の教科指導に関わる活動について、必ずしも専門的な興味をもっていない学生に対して、広く全人教育の観点から、表現教育の意義と、その基礎となる学生個々の表現力・創造性への認識・意識を高める。		0.40	「図工科教育研究」「総合表現」「子ども造形基礎」などの授業を通して、出来るだけ学生にとって身近な事象や課題を採り上げ、表現・創造の世界への学生自身の主体的な関わりを育成できるよう、努力した。ただ、特に教育環境(教室、教材、学外活動の機会創出)の点において、昨年比として、様々な試みを実行したが、未だ不足が残る。さらなる改善を期したい。	
研究	0.40	専門領域である、絵画・現代美術分野で、自身の創作研究を深める。「場所」「生きることと表現すること」といったことが基本テーマとなる。		0.40	県内外で行われた、沖縄の社会状況と深く関わるコンテンポラリーな表現活動に注目し、視察、企画サポート、シンポジウム参加、論評等様々な活動を通して、その教育・普及活動の現場に参加した。また、専門の絵画領域では、2年後に予定される現担当・永津禎三教授からの引き継ぎを睨み、研究及び授業準備を徐々に進めている。	
社会 貢献	0.10	大学教員の立場から、県内の表現現場(アートシーン)、各種の表現教育の現場との関わりを深め、また学内での研究教育活動との連携を活発化させる。		0.10	主に、琉球新報「美術月評」における批評活動(取材・執筆)を通して、県内の表現現場・表現教育の現場との関わりが深まった。また、後期授業「現代社会の諸問題と芸術」(永津禎三氏、亀井洋一郎氏との共同担当)において、「美術館」を採り上げ、学生と共に広く社会における芸術文化活動の多様なあり方、役割、意義について考察し、提言を行った。	
管理 運営	0.10	来年度改組後を見据え、美術教育専修の運営(入学試験およびカリキュラムの見直し・再編、学生の表現・発表活動の支援、等)に力を入れる。 美術教育専修が開設する「マルチメディアアートスタディールーム(マルチメディア室)」の運営。		0.10	「小専美術」等既存科目の新カリキュラムへの再編、「スタートアップ美術」新科目の授業計画立案等を行った。また、今年度から50周年記念館を会場にリニューアルされた「卒業・修了展」の展示企画運営全般を、マルチメディア室を拠点にして、学生たちと共に行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1)本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	小川 由美		所属	教育学部 学校教育教員養成課程	
職名	准教授		名	准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	<p>(1)講義を通して、音楽科授業に関する学生の実践力向上を目指す。その為に、協働的な授業づくりとして、グループによる指導案作成や仮説生成型の模擬授業を実施し、学生相互に意見交換する場を設ける。そのことにより、授業を再構成していく力を身に付けられるようにする。</p> <p>(2)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」「教育臨床研究Ⅰ」の講義の一環として、大学教員による小学校音楽科授業を実施し、受講生はその授業を参観し、授業を記録する。そして授業記録(実践記録)を詳細に読み込むことで、生の授業で起こる出来事を読みとぎ、子どもの学びを意味づけ、自らの実践に生かしていけるような力を養う。</p> <p>(3)音楽教育実践学研究会での研究発表:複数の教員養成大学(音楽教育)による合同合宿を行う。合宿では各大学の大学院生及び大学教員、現職教員(幼小中高)が参加し、研究成果を交流することを通して、音楽教育に関わる幅広い課題について議論する場を持つ。</p>		0.40	<p>(1-1)「音楽科教育研究」(前期・後期)において、グループによる指導案作成・模擬授業の企画実施・授業分析・授業に関するプレゼンテーション等の活動を段階的に行った。また、授業をつくるとはどういうことかを意識させるため、最初に模擬授業を実施させ、そこから出てきた問題を取りあげて解決していく問題解決学習を仕組んでいた。その結果、問題意識を持って活発で主体的な議論が、グループ及び全体交流の場で見られた。模擬授業後の検討会にて、フロアから意見を取り入れて再度「試す」ことで、授業を改善していく営みが生まれた。このことにより、授業を色々な視点から「みる」力にも向上が見られた。</p> <p>(1-2)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」(前期)では、附属小学校での教育実習に向けての教材研究を、「音楽科教育法C」では、附属小中学校での教育実習での反省を踏まえた新たな教材開発を行った。実習の前で教材分析を中心とした音楽科授業づくりを実践的に行うことで、学生が個々に抱えている課題に対応した授業プログラムとなった。</p> <p>(2)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」の講義の一環として、附属小学校の校内研究会に向けての模擬授業に参加し、授業改善に関わった。附属学校の教員と学生とで討議することで、受講生は授業を構成する視点を明確にしつつ、理論を実践に結び付けて考察し理解を深めていった。また、郷土の音楽を用いた模擬授業であったため、地域素材の教材化についての見識も深めていった。</p> <p>(3)音楽教育実践学研究会(2016年8月26-28日、アピカルイン京都)での研究発表にて、複数の教員養成大学による音楽教育分野の合同合宿を行った。合宿では本学の大学院生をはじめ、他大学の院生及び、大学教員、各地の現職教員(幼小中高)が参加し、研究成果を交流することを通して、音楽教育に関わる幅広い課題について議論する場を持った。</p>
研究	0.30	<p>(1)学会発表(日本学校音楽教育実践学会第21回全国大会8/20,21)</p> <p>(2)論文寄稿(日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育研究』)</p> <p>(3)日本学校音楽教育実践学会全国大会における学会活動(常任理事、副事務局長、編集委員、第21回全国大会企画)</p> <p>(4)日本学校音楽教育実践学会発刊予定の実践学事典の原稿を執筆。</p>		0.30	<p>(1-1)日本学校音楽教育実践学会第21回全国大会(於:北海道教育大学岩見沢校、2016年8月20,21日)にて自由研究「言葉の響きとリズムに着目した歌唱活動-郷土のわらべうたを素材として-」を口頭発表</p> <p>(1-2)フォーラムⅢ音楽教育実践学の原理と課題「生成の原理」のテーマとして企画・運営を行った。</p> <p>(2-1)日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育実践論集』第1号に、個人研究「言葉の響きとリズムに着目した歌唱活動-郷土のわらべうたを素材として-」を寄稿(2017年3月発刊予定)</p> <p>(2-2)日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育実践論集』第1号に、フォーラムⅢ報告「生成の原理」を寄稿(2017年3月発刊予定)</p> <p>(3-1)日本学校音楽教育実践学会第21回全国大会運営に常任理事として携わった。</p> <p>(3-2)日本学校音楽教育実践学会の常任理事(副事務局長を兼任)として学会運営に携わった。</p> <p>(3-3)日本学校音楽教育実践学会の副編集委員長として、学会機関誌『学校音楽教育』第21巻および『学校音楽教育実践論集』第1号の編集に携わった。</p> <p>(4)日本学校音楽教育実践学会における『音楽教育実践学事典』原稿を分担執筆(2017年8月発刊予定)。</p>
社会貢献	0.15	<p>(1)関西音楽教育実践学研究会における研究発表及び教員養成系大学院生の指導(月1回、大阪教育大学にて開催)。</p>		0.20	<p>(1)関西音楽教育実践学研究会における研究発表及び教員養成系学生の育成を図った。(月1回大阪教育大学天王寺キャンパスにて開催)。本研究会では、個人研究発表とは別に、今年度の特別企画として「音楽科の授業において育成する能力」をテーマに実践紹介及び検討会を行っている。</p> <p>(2)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」の講義の一環として、新しい形の音楽授業の提案として附属小学校にて大学教員が授業を行う。その授業を受講生が観察し、授業分析を行うことで、子どもの姿を通じた音楽授業の在り方を提言した。その成果は、日本学校音楽教育実践学会第21回全国大会(於:北海道教育大学岩見沢校、2016年8月20-21日)自由研究「言葉の響きとリズムに着目した歌唱活動-郷土のわらべうたを素材として-」として発表した。(2017年3月発行予定の同学会機関誌『学校音楽教育実践論集』第1号にも寄稿している。)</p> <p>(3)附属小学校との共同研究で行ってきた郷土の音楽の教材化の成果を、「国立教育政策研究所教育課程研究指定事業平成27年・28年度実践報告書」とともに学び高め合い、主体的・創造的に音楽表現・鑑賞の学習に取り組む子供の育成～郷土の音楽の実践を中心に～実践事例集(琉球大学、大学院生、附属小学校の三者が関わって制作)にまとめ、原稿執筆及び編集を分担担当</p> <p>(4)アドバイザースタッフ派遣 糸満市立糸満小学校における島尻地区音楽教育研究会主催の研究授業での指導助言</p> <p>(5)大宜味小学校第4学年を対象とした出張授業(2017年2月末に実施予定)</p>
管理運営	0.15	<p>(1)教育実習委員として、学生の介護等体験・教職体験Ⅱ、附属校教育実習等の実習の円滑な運営を目指す。特に介護等体験は部会長として、運営に携わる。</p>		0.10	<p>(1)教育実習委員として、教職指導・教職体験Ⅰ・教職体験Ⅱ・介護等体験・教育実習等々の業務に携わった。特に今年度は、介護等体験部会長として、年間の介護等体験の円滑な運営を図った。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小嶋 季輝	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	4年次の学部生(4名)及び2年次の院生(1名)を受け入れている。いずれも、調査あるいは実験を伴う研究を進めているため、計画の立案及び遂行を支援し、見通しのある学位論文執筆指導を行う。			0.30	研究室所属の学部生及び院生への学位論文指導に関して、口述あるいは論述という点において、一定の改善が現れ、指導の成果が見られた。卒業論文の出来もおおむね満足できるものとなっていた。		
研究	0.20	個人での助成課題が本年度末で終了となる。年度内に調査を完了し、成果をまとめる。また、学外でのプロジェクトも年度始めに終了となるため、成果物の作成とリリースを行う。			0.15	個人研究及び共同研究がともに、おおむね計画通りに進められ、また、期待していた成果も得ることが出来た。それらの成果を7点の論文としてまとめ、成果物の公表へと繋げることも出来た。		
社会貢献	0.10	教員免許状更新講習の講師を引き受けている。必修「教育の最新事情(7組)」及び必修「教育の最新事情(8組)」を担当し、一面的あるいは断片的には把握しがたい教育動向の全体像を体系的に提供したい。			0.10	教員免許状更新講習においては、広い範囲の担当テーマではあったが、限られた講義時間内で多くの情報を提供することが出来た。講習後の試験では、受講者における習得状況も満足出来るものであった。		
管理運営	0.40	学部改組に係るWG及び委員会の活動			0.45	学部改組に係るWG2件及び準備会議1件で活動するとともに、学部委員会では副委員長を担い、学部運営に関わることで、その現況・展望及び関連規程群の理解を深められた。加えて、全学的委員会にも加わり、他学部担当者とも積極的な協力関係を築くことが出来た。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	田中 敦士		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	
職 名	准教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	<p>①講義「知的障害者の指導法Ⅰ・Ⅱ」では、特別支援教育の学校現場で必要となる実践のスキルも体得できるよう、現職教員が使用するマニュアルなども含めて教授するほか、できるだけ模擬授業も取り入れて2次試験対策を意識する。また「知的障害者教育課程論」では、採用試験に向け毎週小テストを実施して意識啓発を図る。②卒業研究12名および修士論文3名とゼミ人数が多いが、学校現場に貢献できるテーマを優先させ、必要に応じて実践現場や学外専門家と連携して共同研究を行う。③国内外の学会で院生にも発表の機会を与え、投稿論文についても積極的な支援を行う。④県内の教員採用試験受験予定者には2次面接対策などを個別に設定する。⑤県外の教員採用試験受験予定者には、昨年度までの合格者の小論文などの各種資料を提供し助言を行うとともに、該当するOBがいれば紹介する。⑥海外の日本人学校受験希望者には、卒業生で海外勤務している学生からの情報を提供する。⑦大学院修士進学希望者に対しては、大学院の情報や研究計画への助言を丁寧にを行う。</p>		0.45	<p>①講義「知的障害者の指導法Ⅰ・Ⅱ」では年度目標に掲げたように、数年前から採用試験も意識して授業作りをした。手間のかかるミニテストを毎週採用試験の予想問題として作成・実施し、学生間の競争意識を向上させた。現4年次では過去最高の約半数が最終合格者となり、意識改革での成果が一定程度あつたと考えられた。②卒論修論の大半は学校現場と共同で行い、還元できる有意義な結果が得られた。③アジアヒューマンサービス学会など国際的な舞台でも院生に発表させ、論文も投稿できるに至った。④2次対策など希望者に対して個別に模擬面接などを実施した。⑤県外受験者にもできるだけ情報提供した。⑥海外勤務の希望者がおり、相談と助言を行い、JICAに合格し、バヌアツの小学校派遣が決定した。⑦大学院修士課程進学希望者に対しては、大学院の情報や研究計画への助言を丁寧にを行った。教育学研究科の廃止時期が未定のため学生に不安と不満が多く、存続に関する意見聴取を学生や保護者、現場教師らから行った。その結果、専修で存続に関する署名を集めることとなり、293名の賛同者を集めて提出することとなった。</p>
研究	0.25	<p>①科研費(基盤研究C;代表:H28-30)「特別支援教育支援員配置によるインクルーシブ教育推進成果評価尺度の標準化」が初年度となるので、精力的に学校現場を訪問し調査を進める。②科研費(基盤研究B;分担:H26-28)「発達障害児における不器用の解明と指導法の開発」は最終年度なので、論文投稿を行う。③知的障害者、発達障害者の教育課程や授業評価等に関する研究をすすめ、成果を学校現場に還元するほか、国内外の学会誌等への論文掲載と学会発表を目標とする。</p>		0.20	<p>①科研費(基盤研究C;代表:H28-30)では、県教育委員会と連携して、県内すべての幼稚園、小学校、中学校、高等学校に対して質問紙調査を実施した。研究成果をもとに、嘉手納町教育委員会等の要請に基づいて特別支援教育支援員への研修も行った。②科研費(基盤研究B;分担:H26-28)では弘前大紀要に筆頭著者として論文掲載されたほか、国際学会でも研究発表とシンポジウム企画を行った。③県立美崎特別支援学校はなさき分校との共同研究として、知的障害者の教育課程再編にかかる校内研修と助言のほか、効果検証を行った。授業成果評価尺度を用いた教育課程の研究成果をまとめ、教員と一緒に京都で開催された発達障害学会で研究発表を行ったほか、学会誌への論文を行った。</p>
社会貢献	0.20	<p>①沖縄県立大平特別支援学校、美咲特別支援学校はなさき分校、および沖縄盲学校の学校評議員として、3校の掛け持ちは大変であるが、可能な限り現場に足を運び特別支援教育と学校運営に関する協力を行う。②県外から訪沖する知的障害のある修学旅行生への公開講座を開催し、大学で学ぶ機会を提供する。③国際学会を主催者としてかわり、最新の情報を学べる機会を提供する。④教育委員会、教員、支援者や事業主らからの相談に積極的に対応する。</p>		0.20	<p>①沖縄県立大平特別支援学校、美咲特別支援学校はなさき分校、および沖縄盲学校の学校評議員として、可能な限り現場に足を運び、行事なども参加したほか、学校運営に対する助言を行い、責務を全うした。②都立青峰学園特別支援学校の知的障害のある高校生40名への公開講座を開催し、大学で沖縄文化を学べる機会を提供した。③国際学会(2nd ARCHIおよびICCC)を主催者のひとりとしてかわり、国内外の若手研究者が最新の情報を学べる機会を提供した。④教育委員会、教員、支援者や事業主らからの相談に積極的に対応した。これからの経験から、IN-CHILDへの教育的診断と支援を体系的にすすめるためのプロジェクトを韓先生と立ち上げ、附属小学校とのケース会議を毎週実施するに至った。現在は嘉数中学校での全校生徒へのサポートを責任者として実施している。さらにそれらが大手製薬会社に認められ、大規模プロジェクトとして採択見込みとなり、来年度からスタッフも募集して発展して実施できる予定である。</p>
管理運営	0.10	<p>①特別支援教育の人材養成の在り方について他大学の情報を収集し、教育委員会や学校現場と連携して次の改革に向けたニーズ調査を開始する。②教育委員会、入試委員会などの委員会活動に努める。③特別支援学校教育実習等での学生指導を担当する。④推薦入試の導入2年目にあたり、入試改革に中心的に取り組む。⑤日本教育大学協会全国特別支援教育部門との窓口として調整する。</p>		0.15	<p>①特別支援教育を含めた人材養成の在り方について、学校現場や国内外の大学、文科省OBらからの情報を分析収集した結果、教職大学院では当該分野で時代に対応した高度な人材養成ができないことが明確となり、新たな大学院(ダイバーシティマネジメント研究科)設置に向けた提案を韓先生とともに学長に行った。②教育委員会では副委員長として委員会活動に努めた。③教職実践演習ではリーダーとして学生指導を担当した。④推薦入試の導入2年目にあたり、入試改革に中心的に取り組んだ結果、過去15年間で最高の競争倍率となった。⑤日本教育大学協会全国特別支援教育部門との窓口として、情報収集に努めたほか、東京学芸大などの新構想4大学が行っているHATOプロジェクトにも参加し、教員養成大学の針路と文科省の将来構想について分析した。これらをもとに、専修の講義科目と教育課程を一新させ、新たな体制で来年度から本格実施する予定である。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		韓 昌完	所 属		教育学部 学校教育教員養成課程
			職 名		准教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成28年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	①障害者発達支援総論は適切なテキストが市販されていないため、テキストを作成し独自の学習資料を提供する ②特別支援教育概説に関しても独自の教材を作成し、教授する。 ③修士課程の指導において、学術雑誌および紀要に研究論文を投稿掲載するように指導を行う。 ④卒業論文の指導では、紀要に論文投稿できるように指導を行う。 ⑤学部指導担当学生を修士課程に進学させる。 ⑥教員採用試験に対する取り組みを積極的に実施する。 ⑦大学院新入学の留学生に対する指導においては国際学会での発表など研究指導を積極的に行う。		0.25	①障害者発達支援総論は適切なテキストが市販されていないため、テキストを作成し独自の学習資料を提供した。 ②特別支援教育概説に関しても独自の教材を作成し提供した。 ③修士課程の研究指導の結果、全国学術雑誌3本、紀要に1本の研究論文を投稿し掲載が決まった(現職1名を含めて)。 ④卒業論文指導の結果、全国学術雑誌に1本の論文投稿を行った。 ⑤学部指導担当学生を修士課程に1名進学させた。 ⑥教員採用試験に対する取り組みを積極的に実施し、ゼミ生3名中2名の現役合格の成果を出すことができた(特支2名、大学院進学1名) ⑦大学院新入学の留学生に対する指導の結果、国際学会での2本の論文発表、全国学術雑誌に1本の論文投稿を行った。 ⑧福岡市で開催された国際学会に修士課程の学生2名、学部の学生4名を引率し参加して計4本の論文発表を行った。 ⑨平成28年度の戦略的教育研究経費に申請し、週一回、特別支援教育専修に在籍している24名の学生を含む、大学院生1名、大学教員3名、計28名で個々のIN-Childに対するケーススタディと支援プログラムの作成を行った。 →年度目標の180%以上の達成。
研究	0.40	①国際ジャーナルに論文2本以上掲載。 ②国内ジャーナル(紀要を含む)に論文1本以上掲載。 ③外部資金(科学研究費補助金等)の獲得にChallengeする。 ④国際学会に1本、国内学会に1本研究発表を行う。		0.40	①国際ジャーナルに論文4本を掲載した。 ②国内ジャーナル(紀要を含む)に論文5本を掲載した。 ③外部資金の獲得にChallengeし、企業との共同研究(3年間約1,800,000円)を確定した。 ④国際学会に6本、国内学会に1本研究発表を行った。 →年度目標の300%程度の達成。
社会貢献	0.20	①海外との研究・人材育成に関する協力システム構築に積極的に取り組む。 ②県からの研修講師等をできる限り引き受ける。 ③附属小学校に対する教育支援を積極的に行う。 ④県立特別支援学校に対する支援を積極的に行う。 ⑤Advisory Staff派遣事業に積極的に参加する。		0.20	①韓国の特別支援学校、障害者福祉センターに教員3名、学生4名と訪問し、国際協力提携を結び、今後の研究、海外実習協力システムの構築に努めた(2016年5月19日～22日まで) ②国頭教育事務所の包括的教育を必要とする子の教育的診断と支援、平成28年度発達障害研修会の講師を務めた。 ③平成27年度沖縄県教育委員会免許法認定講習の講師を務めた。 ④古蔵中学校区小中合同研修会の講師を務めた。 ⑤附属小学校でのアドバイザー、カウンセラーとして活動し、附属小学校の入試、毎月のケース会議に積極的に参加した。 ⑥県立特別支援学校に対する研究指導・助言など共同研究を行った。 ⑦2回のAdvisory Staff派遣事業に参加し講義を行った。 ⑧ICC 2016 (International Conference on Convergence Content), Okinawa, 国際研究大会を誘致し実行委員長を務めた。 →年度目標の150%程度の達成。
管理運営	0.15	①専修主任を担当する。 ②教務委員(大学院主任)を担当する。 ③発達支援教育実践センター運営委員会の委員を担当する。 ④全学障がい学生支援室の運営委員を担当する。		0.15	①専修主任を担当した(3年3回目)。 ②発達支援教育実践センター運営委員会の委員を担当した。 ③教育学部附属小学校の講師(カウンセラー)を務めた。 ④代議員会、教務委員会の委員を務めた。 ⑤全学の障がい学生支援室の運営委員を担当した。 ⑥教育学研究科専攻主任を担当した。 →年度目標の130%程度の達成。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	小原 愛子		所 属	教育学部 学校教育教員養成課程	職 名	講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.50	【学部】 1.病弱者教育、病弱者の心理・生理・病理、重度・重複障害者教育は適切なテキストが市販されていないため、テキストを作成し独自の学習資料を提供する 2.知的障害者の心理、心理検査法、に関しても独自の教材を開発し提供する 【大学院】 1.大学院生の授業において、研究方法に関するテキストを作成し独自の資料を提供する。	0.30	【学部】 1.病弱者教育、病弱者の心理・生理・病理、重度・重複障害者教育は適切なテキストが市販されていないため、テキストを作成し独自の学習資料を作成して提供した。 2.知的障害者の心理、心理検査法、に関しても独自の教材を作成して提供した。 3.授業形態にはアクティブラーニングを導入し、指導案の作成発表及び発表に対する意見交換を取り入れる授業を行った。 3.学部生の研究指導では、論文指導を行いその成果については学会で3回発表された。 【大学院】 1.大学院生の授業において、研究方法に関するテキストを作成し独自の資料を作成して提供した。 2.大学院生の研究指導を行い、その成果については、1本の論文が投稿・掲載され、学会で3回発表された。		
研究	0.30	1.国内ジャーナル(紀要含む)に論文1本以上掲載。 2.国際ジャーナルに論文1本以上掲載。 3.国内学会または国際学会で1題以上発表する。 4.外部資金(科学研究費補助金等)の獲得に挑戦する。	0.50	1.国内ジャーナル(紀要含む)に計画以上の論文2本が投稿・掲載された。 2.国際ジャーナルに計画以上の論文3本が投稿・掲載された。 3.国内学会または国際学会で計画以上の4題を発表した。 4.外部資金(科学研究費補助金等)の獲得 ①学内の戦略的研究推進経費女性研究者支援研究費を獲得し、年間480,000円の研究費を獲得した。 ②科研費の若手研究Bに応募・挑戦した。 ③共同研究に参加し、民間企業との共同研究を推進にメンバーとして参加して、3年間で2700万円を獲得に貢献した。		
社会 貢献	0.10	1.附属小学校に対する教育支援を積極的に行う。 2.特別支援学校に対する教育支援を積極的に行う。	0.10	1.附属小学校に対する教育支援は、附属小学校のカウンセラーとして、週1回のケース会議の企画・運営や教員に対する相談・アドバイス等を行った。 2.特別支援学校に対する教育支援は、県立美崎特別支援学校はなさき分校での校内研修を行い、全教員に対する講演を行った。 3.公立小中学校に対する教育支援は、国頭教育事務所での特別支援教育コーディネータ研修及び、古蔵小中学校での研修会での講師アシスタントを行った。 4.国際学会を誘致 ①International Conference on Convergence Content2016の誘致に実行委員として参加し、約200名の誘致・学会開催を行った。 ②Asian Research Conference of Human Services Innovatioの誘致・開催のために琉球大学後援財団の寄付金申請し、寄付金10万円大学に寄付した。 5.韓国の特別支援学校及び社会福祉法人聖再園との共同研究の締結に参加し貢献した。		
管理 運営	0.10	1.委員会委員を担当する	0.10	1.委員会委員は、入試委員及び学生生活委員を担当し、その中でも学生生活委員会では新入生合宿のWGを担当した。		
	0.00		0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			